

川崎市 子ども・子育て支援に関する調査

報告書（概要版）

平成 26 年 2 月

川 崎 市

目次

I 調査概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の種類と調査数	1
3 抽出方法	1
4 調査方法	1
5 調査期間	1
II 調査結果	2
1 子どもと家族の状況	2
2 子どもの育ちをめぐる環境	3
3 保護者の就労状況	5
4 日中の定期的な教育・保育の事業等の利用状況（就学前子ども）	9
5 地域子育て支援センター等の地域の子育て支援事業の利用状況（就学前子ども）	13
6 土・日曜日や長期休暇中の定期的な教育・保育の事業等の利用（就学前子ども）	16
7 子どもが病気の際の対応	19
8 不定期の教育・保育の事業の利用状況	20
9 宿泊を伴う一時預かり事業	22
10 小学校就学後の放課後事業の利用希望（4歳以上の就学前子ども）	23
11 小学校就学後の放課後事業の利用状況（就学子ども）	25
12 特別な支援が必要な家庭の状況	27
13 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度（就学前子ども）	29
14 これまでの川崎市の子育てに関する事業への取組	31

1 調査概要

1 調査の目的

本調査は、川崎市が「(仮称)川崎市子ども・子育て支援事業計画」の策定に向け、実施するものである。子育て支援に関する市民の生活実態や利用者のニーズを把握し、教育・保育の事業、地域子ども・子育て支援事業、放課後児童健全育成事業等の必要量の見込み、確保策を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施する。

2 調査の種類と調査数

調査の種類としては、小学校就学前子ども（以下「就学前子ども」）の保護者用調査、小学校就学子ども（以下「就学子ども」）の保護者用調査の2種類を実施した。

調査の種類	対象年齢	配布数	回収数	回収率
就学前子どもの保護者用	0～5歳	15,000件	6,969件	46.5%
就学子どもの保護者用	小学校1～6年生	3,000件	1,338件	44.6%

3 抽出方法

年齢別、地域別の分析が可能となるように、住民基本台帳および外国人登録原票より無作為に抽出を行った。また、同一世帯に複数の調査票を送付しないよう抽出した。

就学前子どもの対象者は、教育・保育の事業等の利用状況・ニーズを把握するため、低年齢を中心に、0歳児、1～2歳児、3～5歳児の3区分で抽出した。

就学子どもの対象者は、放課後児童健全育成事業である「わくわくプラザ」等の利用状況・ニーズを把握するため、主な利用者である低学年を中心に、1年生、2～3年生、4～6年生（高学年）の3区分で抽出した。抽出した年齢ごとのサンプル数は以下に示すとおりである。

■就学前子どもの保護者用の内訳

年齢区分	抽出数	合計
0歳児	4,300	4,300
1歳児	2,543	5,000
2歳児	2,457	
3歳児	1,978	5,700
4歳児	1,917	
5歳児	1,805	

■就学子どもの保護者用の内訳

年齢区分	抽出数	合計
1年生（6歳児）	1,000	1,000
2年生（7歳児）	471	1,000
3年生（8歳児）	529	
4年生（9歳児）	316	1,000
5年生（10歳児）	340	
6年生（11歳児）	344	

4 調査方法

郵送配布／郵送回収

5 調査期間

平成25年9月27日～10月18日

II 調査結果

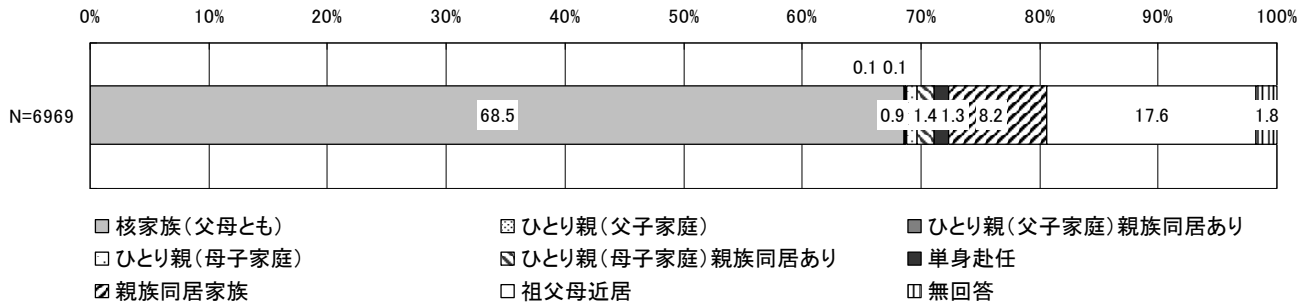
1 子どもと家族の状況

(1) 家族構成の状況

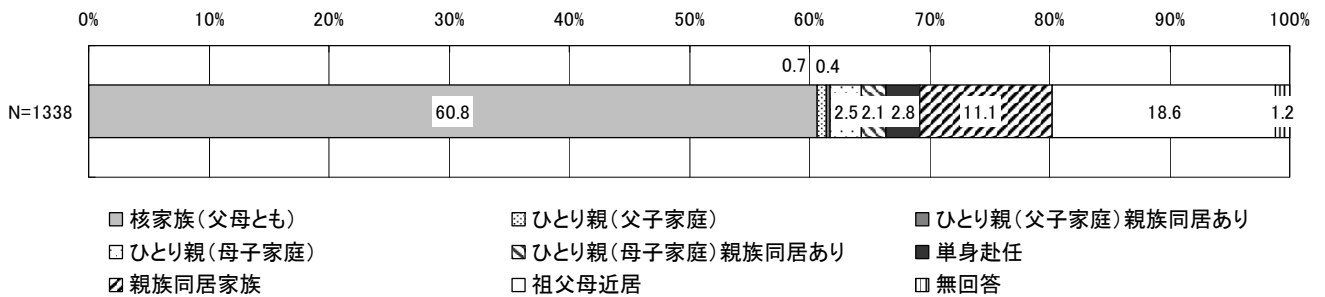
「核家族」世帯は、就学前子どもで68.5%、就学子どもで60.8%となり、家族構成の中で一番多い。「祖父母近居」世帯は、就学前子どもで「親族同居家族」世帯の約2倍となっている。

「ひとり親」世帯は、就学前子どもで2.5%、就学子どもで5.7%となり、共に母子家庭の方が多。 「単身赴任」世帯は、就学前子どもで1.3%、就学子どもで2.8%となり、約2倍である。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)

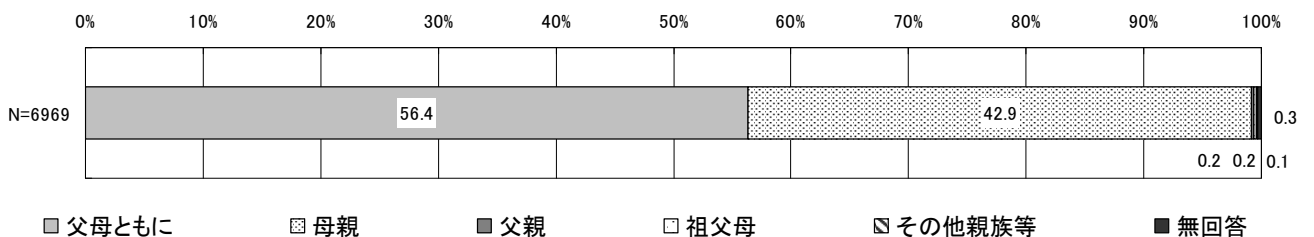


*家族の同居・近居状況の回答に基づき、父母の配偶関係、祖父母等親族の同居有無等から8区分の家族構成とした

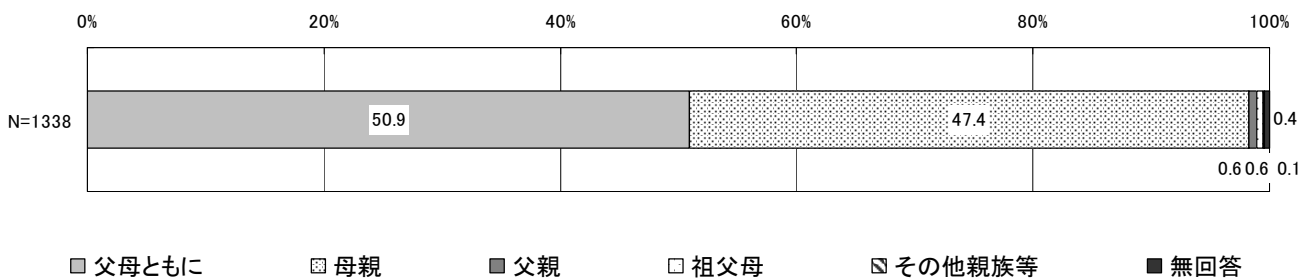
(2) 子育てを主に行っている方

就学前子ども・就学子ども共に、「父母ともに」が50%を超え、「母親」も40%を超えているが、「父親」は1%に満たない。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)



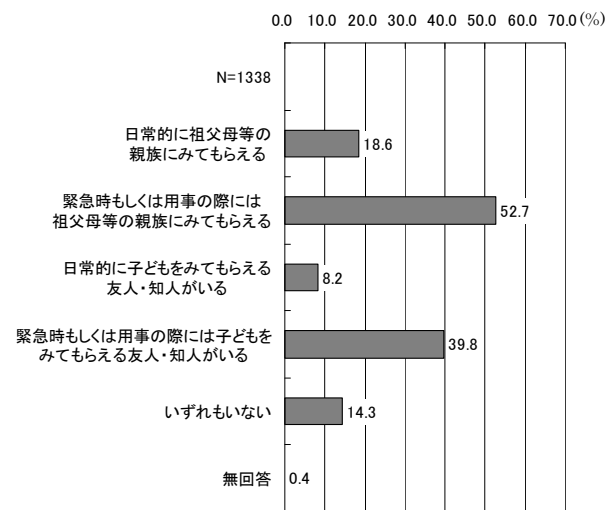
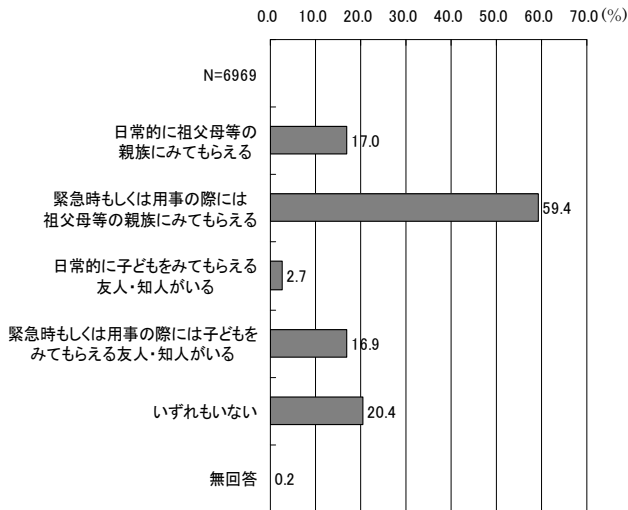
2 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てに対する支え

「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」は、就学前子どもで 59.4%、就学子どもで 52.7%である。「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」は、就学前子どもで 16.9%に対し、就学子どもで 39.8%である。

■ 就学前子ども (MA)

■ 就学子ども (MA)



(2) 子育てに関する相談の状況

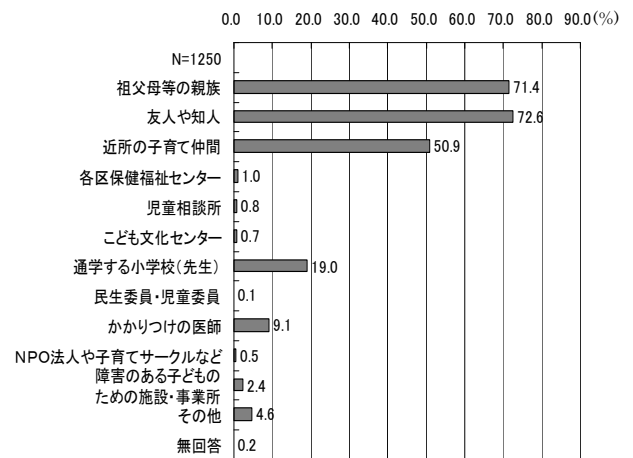
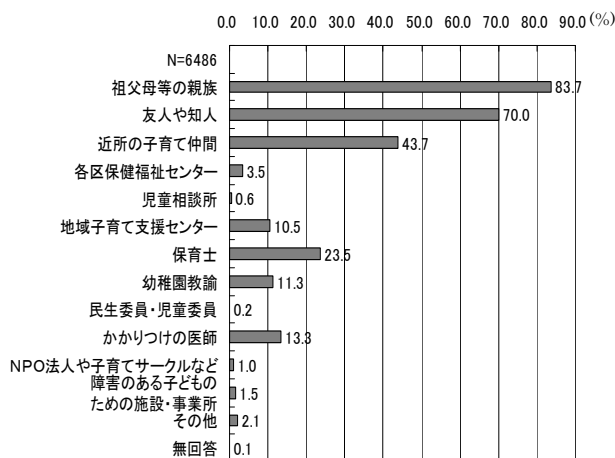
ア 子育てに関する相談先 (人・施設等)

気軽に相談できる人や場所が「いる」または「ある」方は、就学前子ども・就学子ども共に 90%を超えている。

就学前子どもの相談先は、「祖父母等の親族」83.7%、「友人や知人」70.0%、「近所の子育て仲間」43.7%の順に多く、就学子どもの相談先は、「友人や知人」72.6%、「祖父母等の親族」71.4%、「近所の子育て仲間」50.9%の順に多い。

■ 就学前子ども (MA)

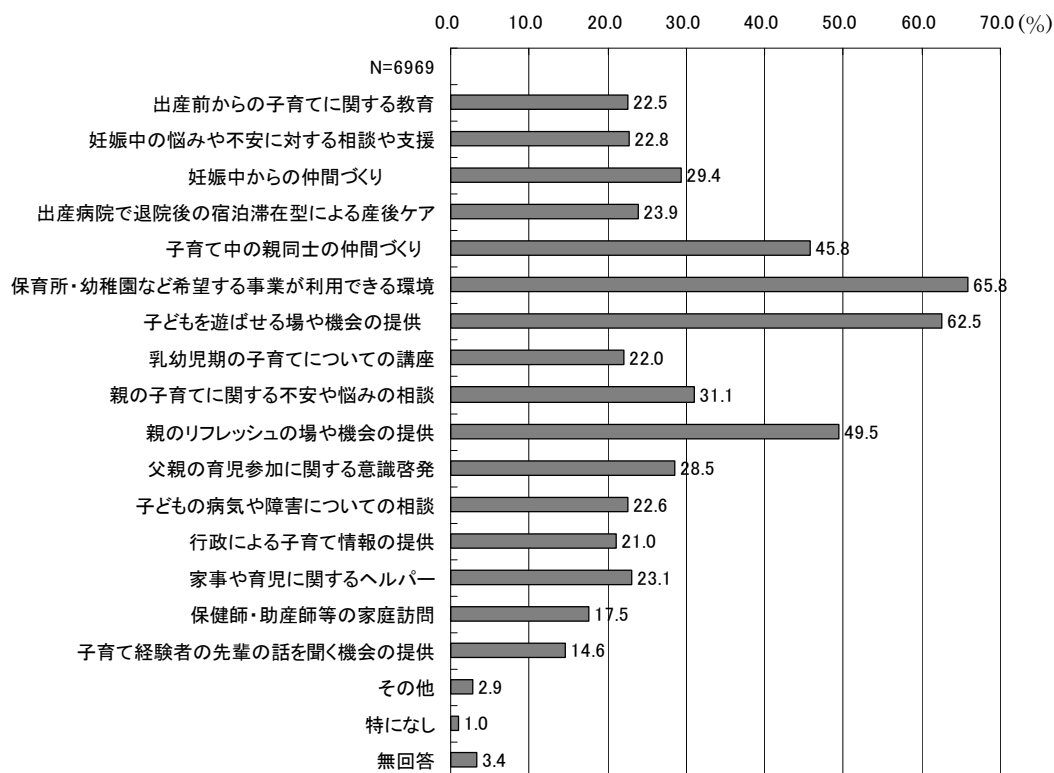
■ 就学子ども (MA)



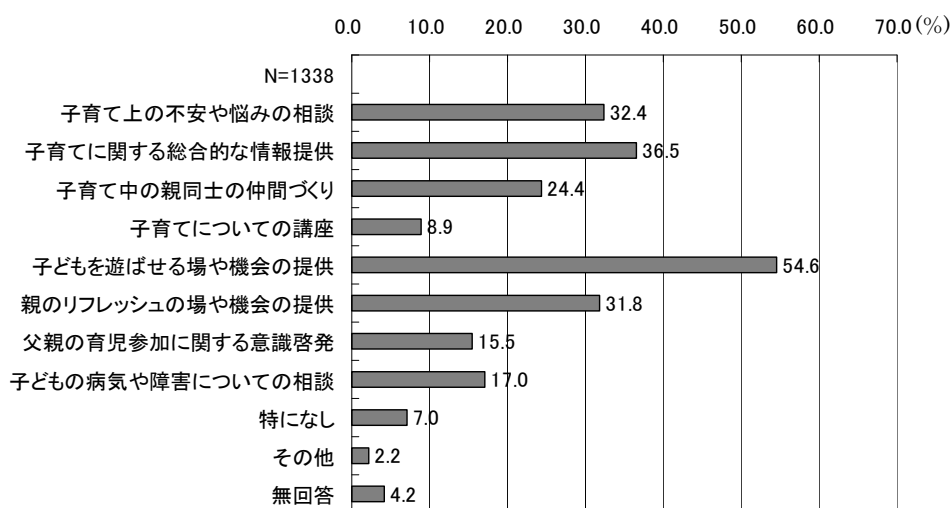
(3) 安心して子育てを行うために、あればよいと思うサポート

就学前子ども・就学子ども共に「子どもを遊ばせる場や機会の提供」は半数を超えている。また、就学前子どもでは「保育所・幼稚園など希望する事業が利用できる環境」が最も多い。

■就学前子ども (MA)



■就学子ども (MA)



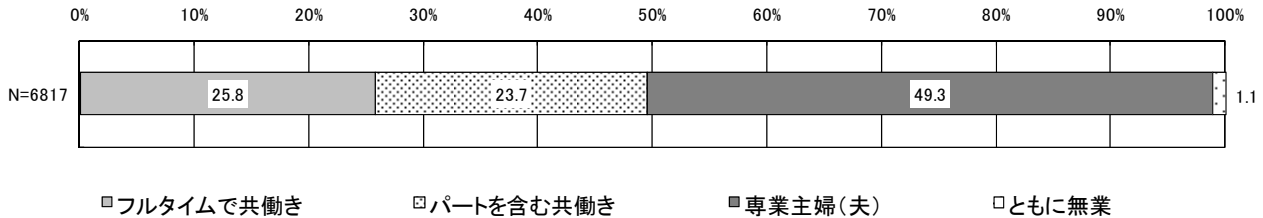
3 保護者の就労状況

(1) 世帯（母親と父親）の就労状況

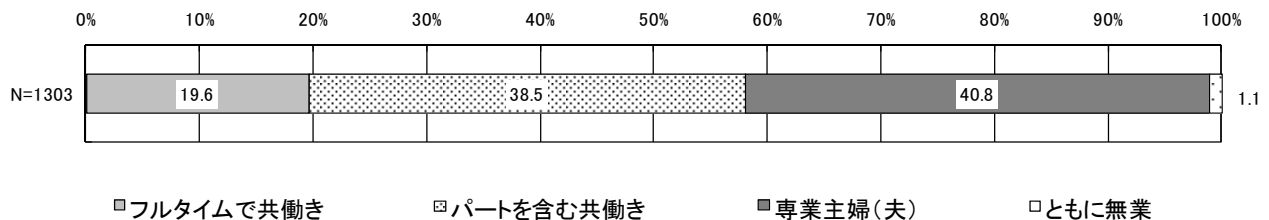
就学前子どもは、「フルタイムで共働き」世帯が 25.8%、「パートを含む共働き」世帯が 23.7%、「専業主婦（夫）」世帯が 49.3%、「ともに無業」世帯が 1.1%である。

就学子どもは、「フルタイムで共働き」世帯が 19.6%、「パートを含む共働き」世帯が 38.5%、「専業主婦（夫）」世帯が 40.8%、「ともに無業」世帯が 1.1%である。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)



* 母親、父親の就労状況から世帯の就労状況として4区分に分類（フルタイムで共働き（両方ともがフルタイム）、パートを含む共働き（両方ともパートまたは一方がパートの場合）、専業主婦（夫）（どちらか一方が無業）、ともに無業（両方共が無業））
 なお、フルタイムのうち、就労日数が4日以下、就労時間が8時間未満の場合は、パートの就労形態として補正した。

■家族構成別の就労状況

(就学前子ども)

	合計(N)	核家族 (父母とも) (%)	ひとり親 (父子家 庭)(%)	ひとり親 (父子家 庭)親族 同居あり (%)	ひとり親 (母子家 庭)(%)	ひとり親 (母子家 庭)親族 同居あり (%)	単身赴任 (%)	親族同居 家族(%)	祖父母近 居(%)
合計	6701	70.0	0.1	0.1	0.9	1.5	1.3	8.2	17.9
フルタイムで共働き	1714	71.6	0.5	0.4	1.5	1.9	1.1	6.7	16.3
パートを含む共働き	1614	69.9	0.0	0.0	1.2	2.0	1.1	7.9	18.0
専業主婦(夫)	3311	70.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	9.3	19.0
ともに無業	62	12.9	0.0	0.0	22.6	58.1	0.0	4.8	1.6

(就学子ども)

	合計(N)	核家族 (父母とも) (%)	ひとり親 (父子家 庭)(%)	ひとり親 (父子家 庭)親族 同居あり (%)	ひとり親 (母子家 庭)(%)	ひとり親 (母子家 庭)親族 同居あり (%)	単身赴任 (%)	親族同居 家族(%)	祖父母近 居(%)
合計	1290	62.2	0.7	0.2	2.5	2.1	2.5	10.9	19.0
フルタイムで共働き	253	57.3	2.4	1.2	7.1	4.7	2.4	10.7	14.2
パートを含む共働き	497	57.7	0.6	0.0	2.0	2.2	2.0	13.9	21.5
専業主婦(夫)	526	69.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	8.4	19.0
ともに無業	14	28.6	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0	0.0	14.3

* 上位3位を網掛け

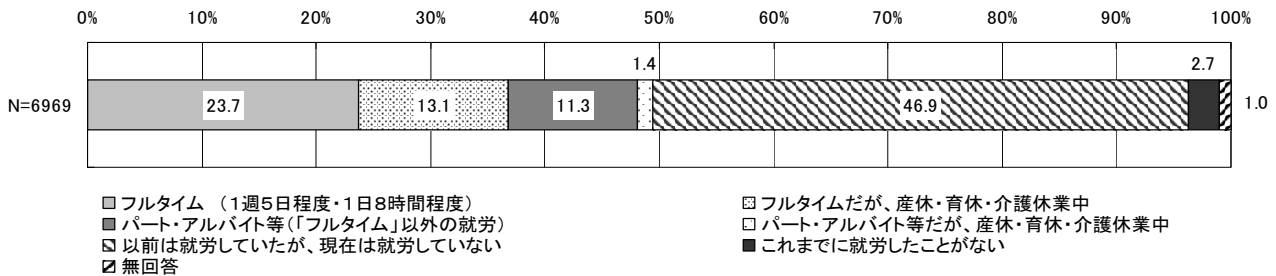
* ひとり親についてはフルタイム勤務の場合は、「フルタイムで共働き」、パート・アルバイト勤務の場合は「パートを含む共働き」、無業の場合は「ともに無業」に分類した。

(2) 母親の就労状況

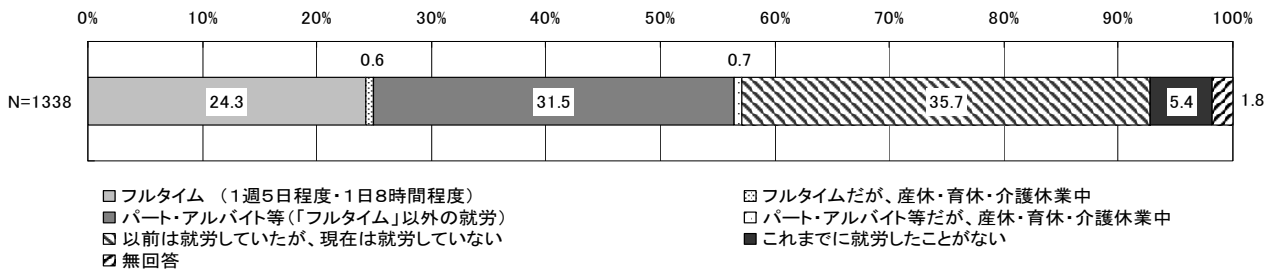
ア 就労形態

母親のフルタイム就労は、就学前子どもで約 37%、就学子どもで約 25%であり、パート・アルバイト等の就労は、それぞれ約 13%、約 32%である。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)



イ フルタイム・パートタイム勤務の状況 (産休・育休・介護休業者の休業前の状況を含む)

就学前子ども・就学子ども共に、就労日数「5日」、就労時間「8時間」が最も多い。

■就学前子ども (SA)

1週あたりの「就労日数」	合計(N)	全体(%)
1日	75	2.2
2日	131	3.8
3日	190	5.5
4日	210	6.1
5日	2,568	74.4
6日	149	4.3
7日	18	0.5
無回答	110	3.2
合計	3,451	100.0

1日あたりの「就労時間」	合計(N)	全体(%)
1時間	9	0.3
2時間	30	0.9
3時間	72	2.1
4時間	135	3.9
5時間	192	5.6
6時間	370	10.7
7時間	570	16.5
8時間	1,279	37.1
9時間	321	9.3
10時間	228	6.6
11時間	49	1.4
12時間	39	1.1
13時間	13	0.4
14時間以上	4	0.1
無回答	136	3.9
合計	3,451	100.0

■就学子ども (SA)

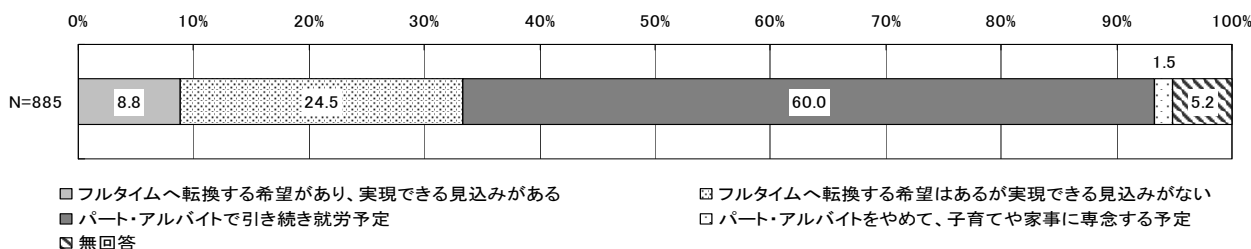
1週あたりの「就労日数」	合計(N)	全体(%)
1日	9	1.2
2日	45	5.9
3日	137	17.9
4日	128	16.8
5日	386	50.5
6日	34	4.5
7日	0	0.0
無回答	25	3.3
合計	764	100.0

1日あたりの「就労時間」	合計(N)	全体(%)
1時間	5	0.7
2時間	10	1.3
3時間	45	5.9
4時間	104	13.6
5時間	106	13.9
6時間	88	11.5
7時間	87	11.4
8時間	209	27.4
9時間	37	4.8
10時間	29	3.8
11時間	4	0.5
12時間	6	0.8
13時間	0	0.0
14時間以上	5	0.7
無回答	29	3.8
合計	764	100.0

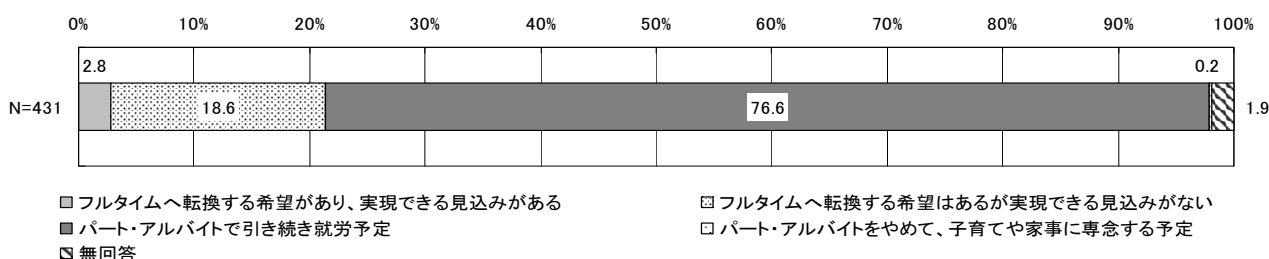
ウ パート・アルバイト就労のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイトの就労をしている母親の「フルタイムへの転換する希望があり、実現できる見込みがある」については、就学前子どもでは8.8%、就学子どもでは2.8%である。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)

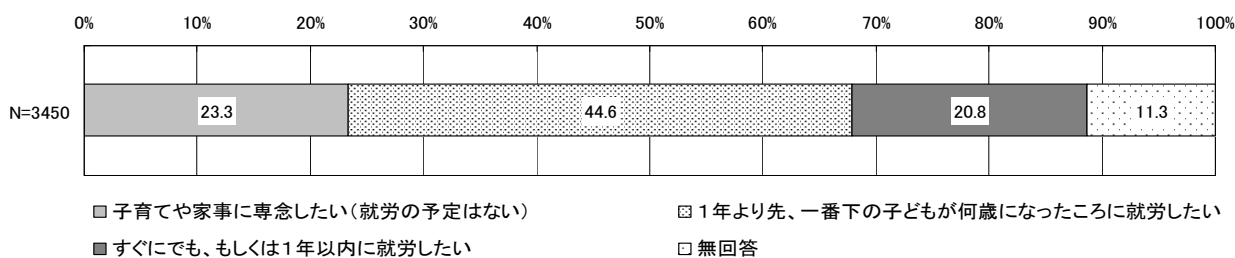


エ 現在非就労の今後の就労希望

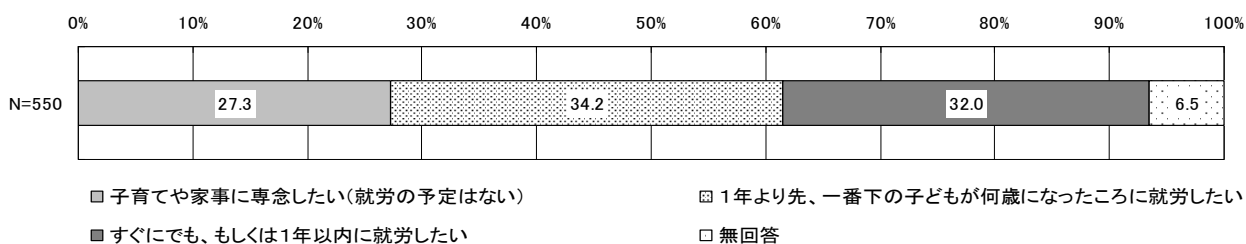
現在、就労していない母親の就労希望は、就学前子ども・就学子ども共に60%を超えており、希望する就労形態は、いずれも「パート・アルバイト」を多く希望している。

①今後の就労希望

■就学前子ども (SA)

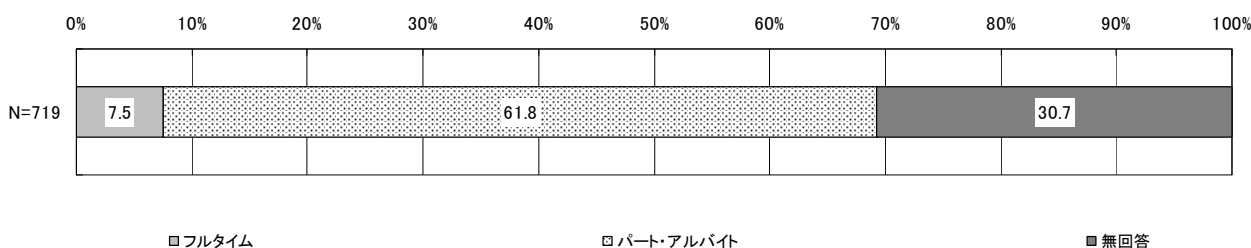


■就学子ども (SA)

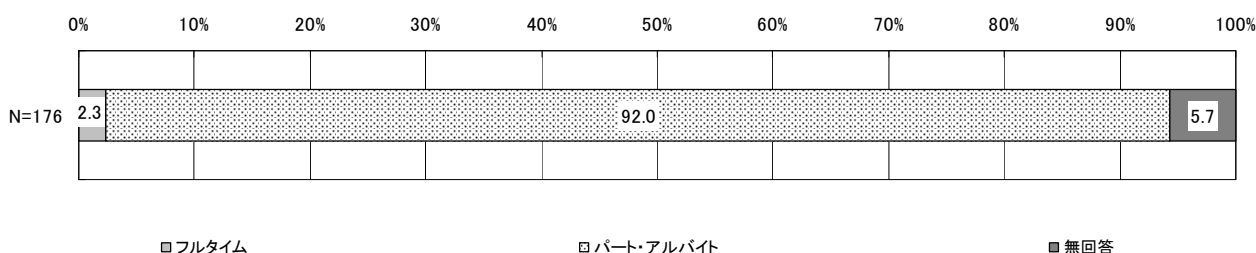


②希望する就労形態（すぐにも、1年以内に就労したい方の希望）

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)



(3) 父親の就労状況

ア フルタイム・パートタイム勤務の状況（育休・介護休業者の休業前の状況を含む）

父親の勤務形態は90%以上がフルタイムで、勤務の状況は就学前子ども・就学子ども共に、就労日数「5日」、就労時間「10時間」が最も多い。

■就学前子ども (SA)

1週あたりの「就労日数」	合計(N)	全体(%)
1日	1	0.0
2日	4	0.1
3日	18	0.3
4日	19	0.3
5日	4,708	70.7
6日	1,359	20.4
7日	98	1.5
無回答	456	6.8
合計	6,663	100.0

1日あたりの「就労時間」	合計(N)	全体(%)
1時間	2	0.0
2時間	0	0.0
3時間	1	0.0
4時間	5	0.1
5時間	4	0.1
6時間	11	0.2
7時間	76	1.1
8時間	1,212	18.2
9時間	886	13.3
10時間	1,614	24.2
11時間	540	8.1
12時間	922	13.8
13時間	341	5.1
14時間以上	456	6.9
無回答	593	8.9
合計	6,663	100.0

■就学子ども (SA)

1週あたりの「就労日数」	合計(N)	全体(%)
1日	0	0.0
2日	1	0.1
3日	2	0.2
4日	11	0.9
5日	900	72.2
6日	224	18.0
7日	27	2.2
無回答	81	6.5
合計	1246	100.0

1日あたりの「就労時間」	合計(N)	全体(%)
1時間	0	0.0
2時間	0	0.0
3時間	0	0.0
4時間	0	0.0
5時間	0	0.0
6時間	3	0.2
7時間	13	1.0
8時間	232	18.6
9時間	172	13.8
10時間	341	27.4
11時間	93	7.5
12時間	150	12.0
13時間	59	4.7
14時間以上	68	5.4
無回答	115	9.2
合計	1246	100.0

4 日中の定期的な教育・保育の事業等の利用状況（就学前子ども）

(1) 定期的な教育・保育の事業の利用有無

日中の定期的な教育・保育の事業を利用している方は、就学前子ども全体の 53.7%であり、年齢別でみると0歳児は 15.7%、1～2歳児は 40%台、3～5歳児は 90%台である。

■年齢別の定期的な教育・保育の事業の利用有無

	合計(N)	利用している(%)	利用していない(%)
合計	6811	53.7	46.3
0歳	2138	15.7	84.3
1歳	1135	42.2	57.8
2歳	1083	47.2	52.8
3歳	840	90.1	9.9
4歳	825	97.1	2.9
5歳	790	98.2	1.8

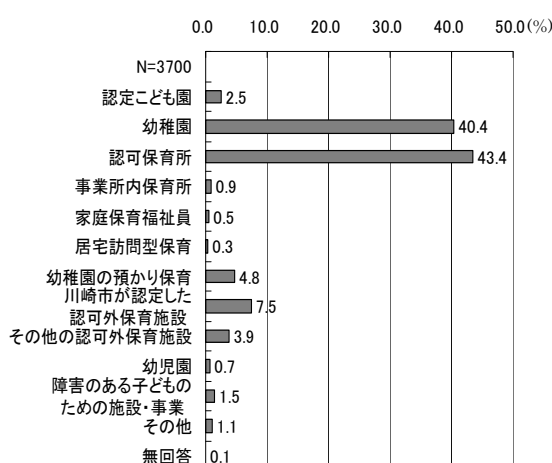
*最大値を網掛け

(2) 定期的な教育・保育の事業の利用状況と今後の利用希望

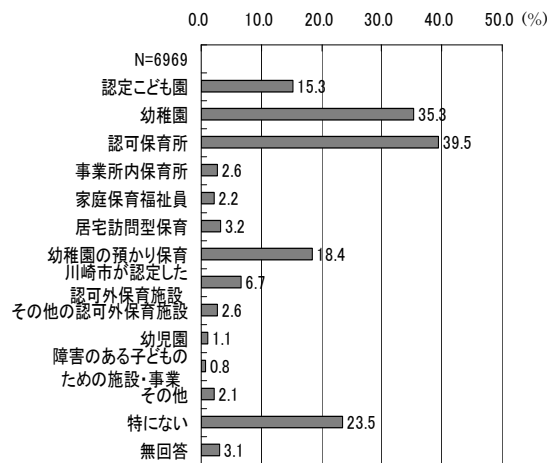
ア 利用している事業の種類と今後の希望

利用している事業は、「認可保育所」43.4%、「幼稚園」40.0%、「川崎市が認定した認可外保育施設」7.5%の順に多い。今後の利用希望は、「認可保育所」39.5%、「幼稚園」35.3%、「幼稚園の預かり保育」18.4%の順に多い。

■現在の利用事業 (MA)



■今後の利用希望 (MA)



世帯就労別の利用事業は、「フルタイムで共働き」世帯では、「認可保育所」75.9%、「川崎市が認定した認可外保育施設」11.1%、「その他の認可外保育施設」4.8%の順に多く、「パートを含む共働き世帯」では、「認可保育所」57.2%、「幼稚園」24.0%、「川崎市が認定した認可外保育施設」10.5%の順に多く、「専業主婦(夫)」世帯では、「幼稚園」86.8%、「幼稚園の預かり保育」4.7%、「障害のある子どものための施設・事業所」3.5%の順に多い。

■世帯就労別の定期的な教育・保育の事業の利用事業

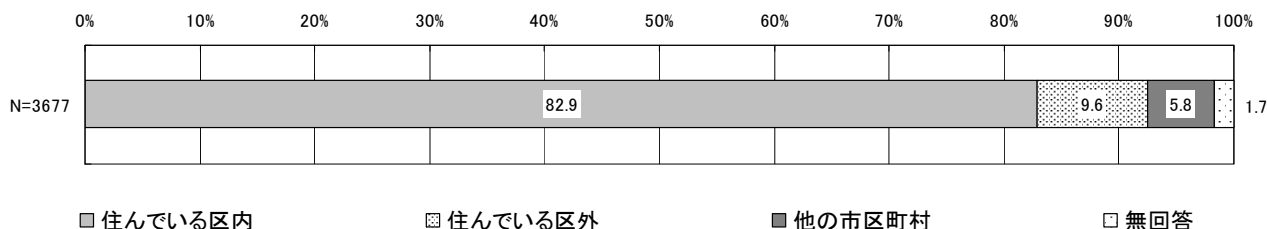
	合計(N)	認定こども園(%)	幼稚園(%)	認可保育所(%)	事業所内保育所(%)	家庭保育福祉員(%)	居宅訪問型保育(%)	幼稚園の預かり保育(%)	川崎市が認定した認可外保育施設(%)	その他の認可外保育施設(%)	幼児園(%)	障害のある子どものための施設・事業所(%)	その他(%)
合計	3623	2.5	41.3	44.3	0.9	0.5	0.3	4.9	7.7	4.0	0.7	1.5	1.1
フルタイムで共働き	1075	2.6	3.8	75.9	1.5	0.5	0.2	1.1	11.1	4.8	0.4	0.3	1.1
パートを含む共働き	1256	3.0	24.0	57.2	1.0	0.8	0.4	8.1	10.5	4.7	0.6	0.6	0.6
専業主婦(夫)	1267	1.7	86.8	2.8	0.2	0.2	0.2	4.7	1.8	2.3	1.0	3.5	1.5
ともに無業	25	0.0	68.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0

*上位3位を網掛け

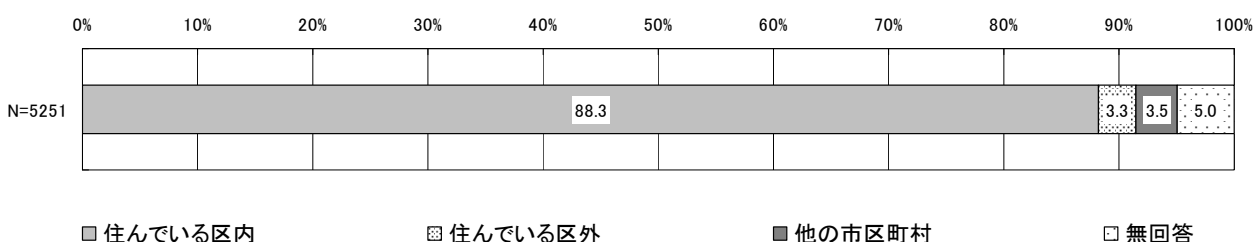
イ 事業の実施場所と今後の希望

現在の実施場所については、「住んでいる区内」82.9%が最も多い。住んでいる区外を利用して
いる場合は、「高津区」「中原区」で約25%と多い。また、今後の希望は、「住んでいる区内」88.3%
が最も多く、実施場所を選んだ理由は、「自宅から近いから」70.2%が最も多い。

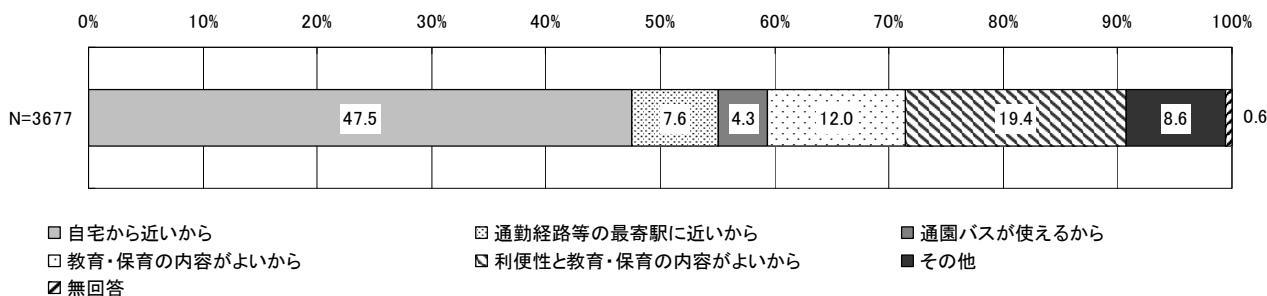
■現在の実施場所 (SA)



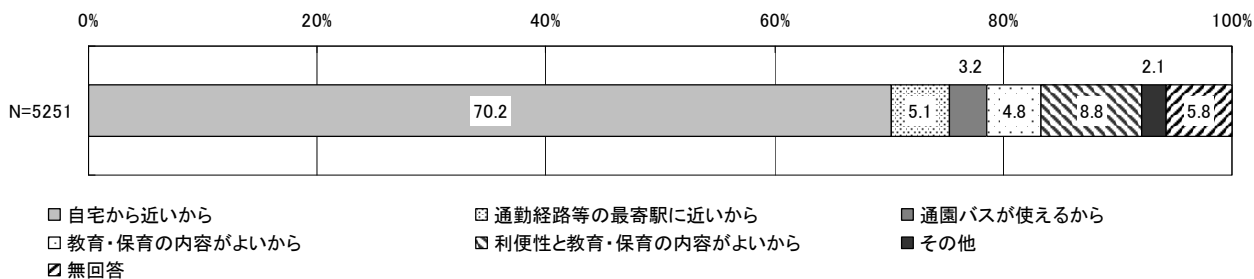
■今後の希望 (SA)



■現在の場所を選んだ理由 (SA)



■希望の場所を選んだ理由 (SA)



(3) 定期的な教育・保育の事業の利用日数・利用時間

ア 事業別の利用日数

「幼稚園」「認可保育所」「幼児園」「認定こども園」では、「5日」の利用が約90%である。また「居宅訪問型保育」「幼稚園の預かり保育」「障害のある子どものための施設・事業」では、「1日」の利用が多い。

■事業別の利用日数(MA)

	合計(N)	1日(%)	2日(%)	3日(%)	4日(%)	5日(%)	6日(%)	7日(%)
合計	3924	4.9	2.3	1.6	3.6	85.4	2.0	0.1
認定こども園	89	2.2	2.2	4.5	1.1	87.6	2.2	0.0
幼稚園	1477	0.8	0.6	0.3	2.8	94.9	0.4	0.1
認可保育所	1596	0.8	0.9	0.7	2.8	90.7	4.1	0.2
事業所内保育所	32	15.6	3.1	0.0	12.5	65.6	3.1	0.0
家庭保育福祉員	15	13.3	0.0	0.0	6.7	80.0	0.0	0.0
居宅訪問型保育	8	62.5	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0
幼稚園の預かり保育	149	39.6	20.8	10.1	9.4	20.1	0.0	0.0
川崎市が認定した認可外保育施設	275	2.2	2.5	2.2	6.2	85.8	1.1	0.0
その他の認可外保育施設	138	5.8	7.2	7.2	10.1	66.7	2.2	0.7
幼児園	27	3.7	7.4	0.0	0.0	88.9	0.0	0.0
障害のある子どものための施設・事業	53	77.4	9.4	11.3	0.0	1.9	0.0	0.0
その他	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非該当	65	63.1	10.8	7.7	4.6	13.8	0.0	0.0

*上位3位を網掛け

イ 事業別の利用時間数

「幼稚園」では4～7時間に集中しており、「認可保育所」では7～11時間、「認定こども園」「川崎市が認定した認可外保育施設」では8～11時間に集中している。

■事業別の利用時間数(MA)

	合計	1時間(%)	2時間(%)	3時間(%)	4時間(%)	5時間(%)	6時間(%)	7時間(%)	8時間(%)	9時間(%)	10時間(%)	11時間(%)	12時間(%)	13時間(%)	14時間以上(%)
合計	3929	1.1	2.2	2.4	6.8	24.5	8.6	4.2	7.3	14.8	18.5	8.1	1.1	0.2	0.1
認定こども園	89	1.1	1.1	1.1	2.2	18.0	4.5	6.7	9.0	13.5	24.7	15.7	1.1	1.1	0.0
幼稚園	1474	0.7	0.4	0.4	13.3	62.2	20.2	1.1	0.6	0.6	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1
認可保育所	1599	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.5	7.4	11.7	27.3	35.1	15.4	2.0	0.1	0.0
事業所内保育所	33	0.0	0.0	6.1	6.1	15.2	6.1	0.0	18.2	24.2	9.1	9.1	6.1	0.0	0.0
家庭保育福祉員	17	0.0	5.9	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	35.3	23.5	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0
居宅訪問型保育	8	0.0	12.5	50.0	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
幼稚園の預かり保育	153	6.5	30.7	32.7	18.3	3.3	0.7	2.0	2.0	0.7	0.0	2.0	0.7	0.0	0.7
川崎市が認定した認可外保育施設	274	0.0	0.7	1.5	1.5	0.4	2.6	1.1	16.1	27.0	33.9	12.8	1.5	0.7	0.4
その他の認可外保育施設	139	0.0	1.4	2.9	4.3	2.9	5.0	6.5	13.7	21.6	27.3	10.1	2.9	1.4	0.0
幼児園	27	3.7	0.0	3.7	3.7	14.8	14.8	22.2	11.1	11.1	11.1	3.7	0.0	0.0	0.0
障害のある子どものための施設・事業	51	19.6	5.9	17.6	51.0	3.9	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
非該当	65	13.8	36.9	16.9	3.1	7.7	7.7	3.1	3.1	3.1	0.0	1.5	1.5	1.5	0.0

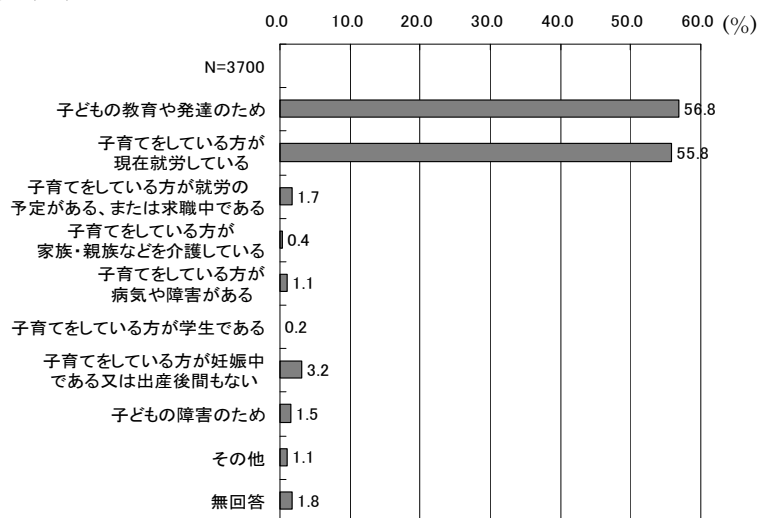
*上位5位を網掛け

*事業番号が未記入で判別できない場合や、問4-2と問4-3でそれぞれ異なる事業を選択した場合等を非該当として集計した。そのため、各事業の件数が合致しないことがある。

(4) 定期的な教育・保育の事業を利用している理由

「子どもの教育や発達のため」56.8%、「子育てをしている方が現在就労している」55.8%の順に多い。

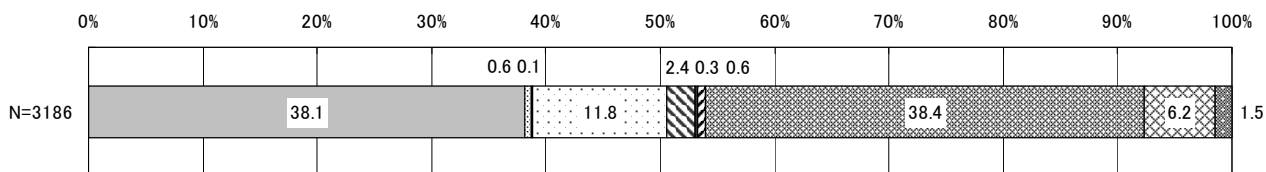
■利用している理由 (MA)



(5) 定期的な教育・保育の事業を利用していない理由

「親がみているので利用する必要がない」38.1%、「子どもがまだ小さいため」38.4%の順に多い。

■利用していない理由 (SA)



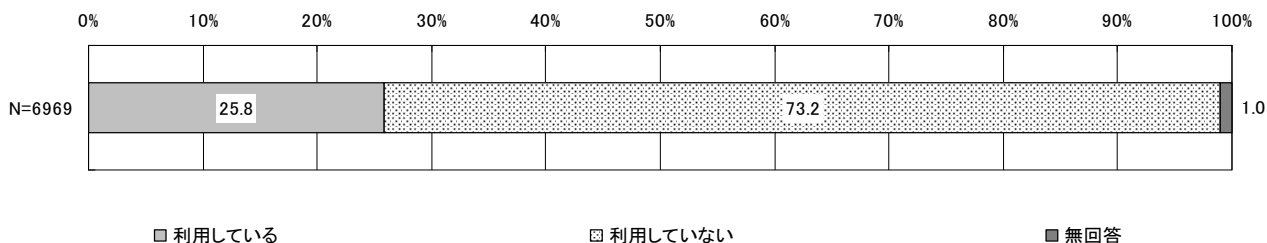
- 親がみているので利用する必要がない
- 近所の人や友人・知人がみているので利用する必要がない
- 経済的理由で事業を利用できない
- ▨ 場所や質など、納得できるサービスがない
- その他
- ▨ 祖父母や親戚がみているので利用する必要がない
- 教育・保育の事業に空きがない
- 延長・夜間などの時間帯の条件が合わない
- ▨ 子どもがまだ小さいため
- 無回答

5 地域子育て支援センター等の地域の子育て支援事業の利用状況（就学前子ども）

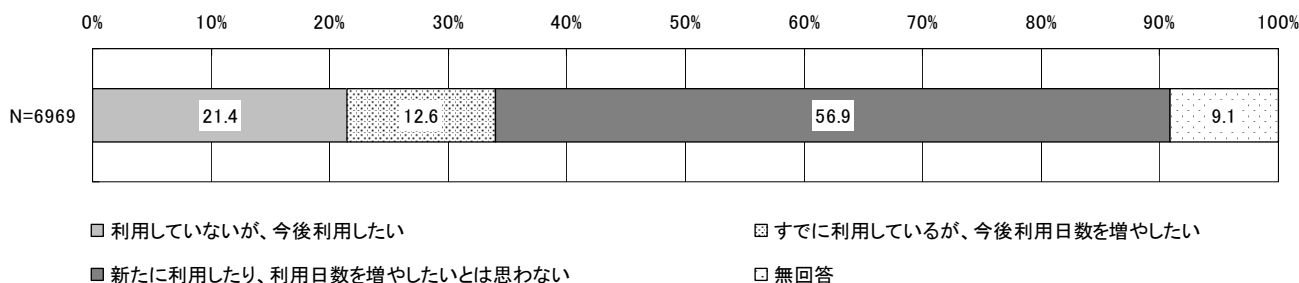
（1）現在の地域子育て支援センターの利用有無

地域子育て支援センターを「利用している」方は全体の25.8%であり、「利用していないが、今後利用したい」と「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」を合わせて約34%である。

■現在の利用有無(SA)



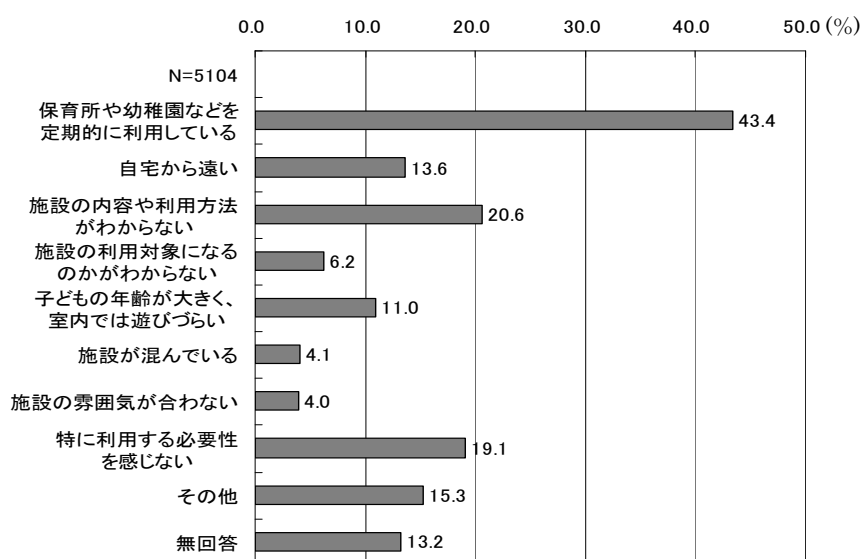
■今後の利用希望(SA)



（2）地域子育て支援センターを利用していない理由

「保育所や幼稚園などを定期的に利用している」43.4%、「施設の内容や利用方法がわからない」20.6%、「特に利用する必要性を感じない」19.1%の順に多い。

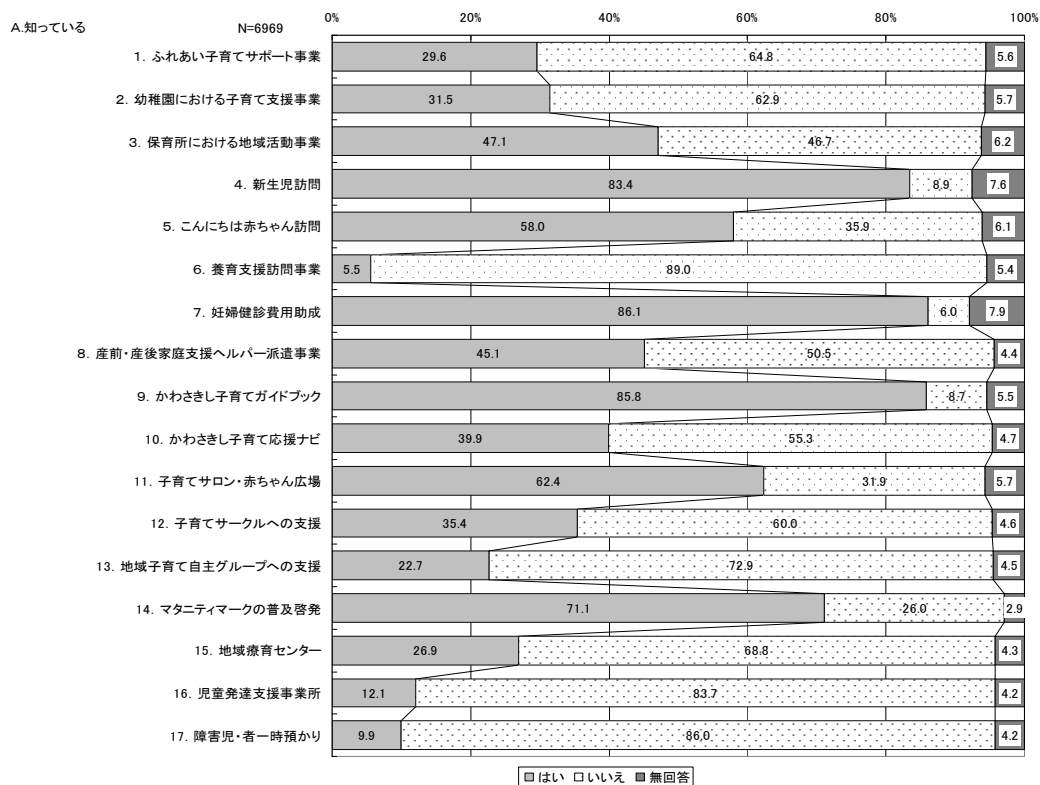
■利用していない理由(MA)



(3) 各事業の認知度、利用有無及び利用時の満足度、今後の利用意向

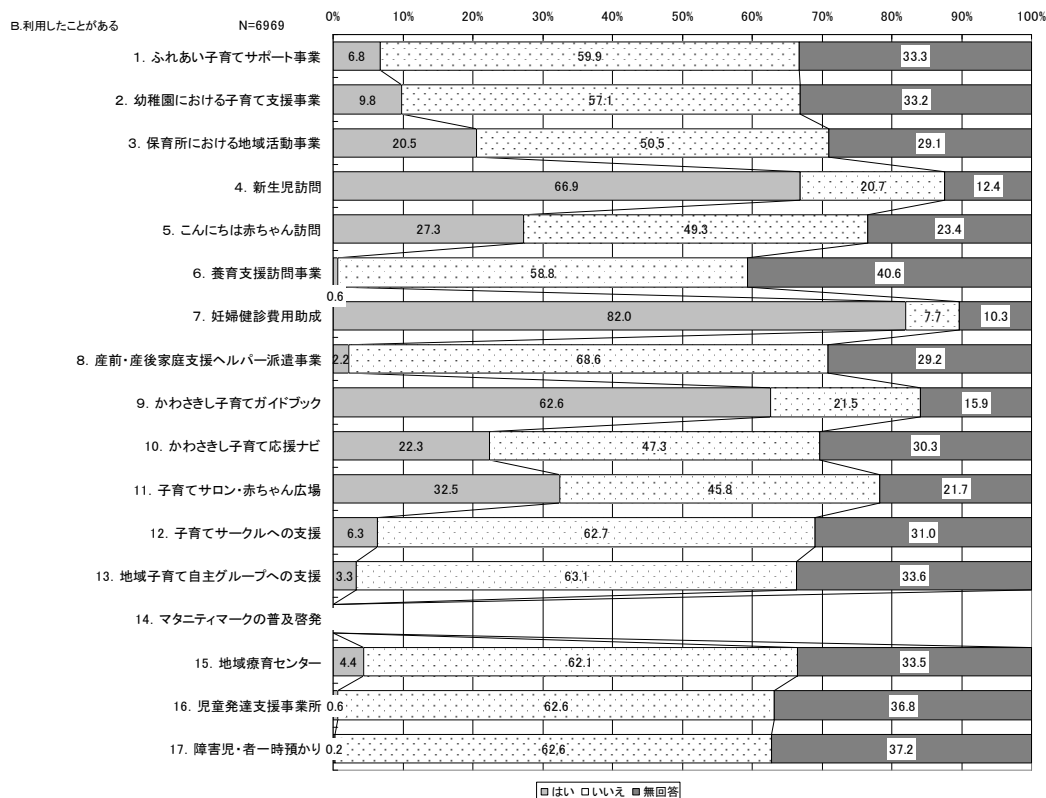
「妊婦健診費用助成」86.1%、「かわさきし子育てガイドブック」85.8%、「新生児訪問」83.4%の順に多い。

■知っている事業(SA)



「妊婦健診費用助成」82.0%、「新生児訪問」66.9%、「かわさきし子育てガイドブック」62.6%の順に多い。

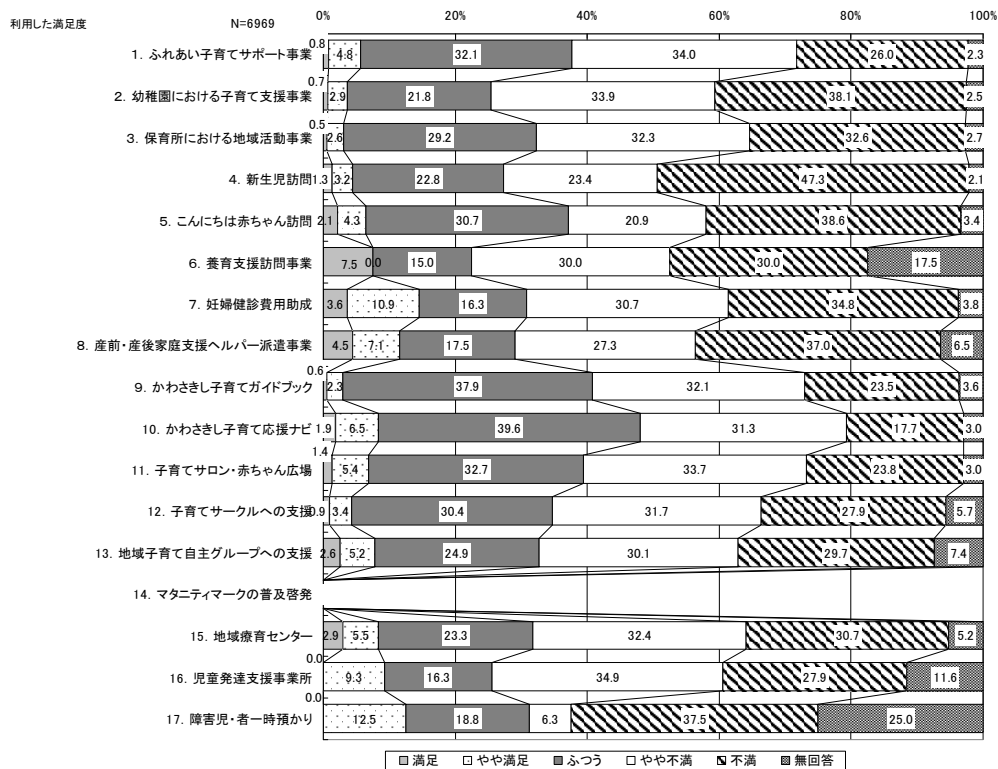
■利用したことがある事業(SA)



* 14. マタニティマークの普及啓発については、利用したことがあるについては対象外

「満足」と「やや満足」を合わせると、「妊婦健診費用助成」約15%、「障害児・者一時預かり」12.5%、「産前・産後家庭支援ヘルパー派遣事業」約12%の順に多い。

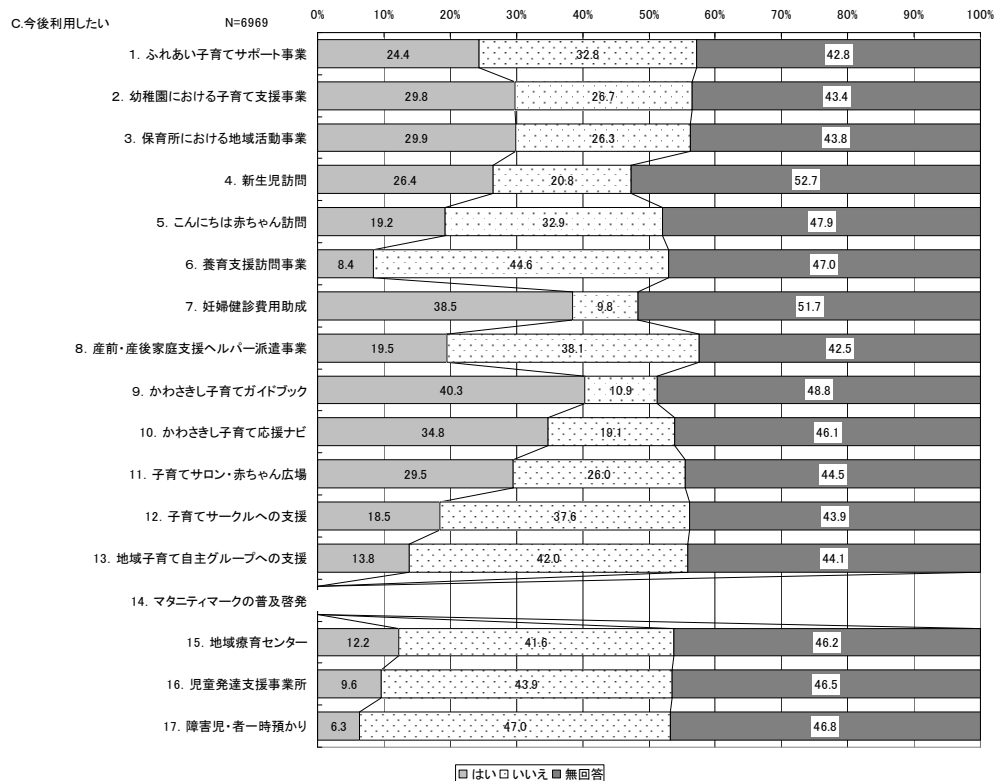
■利用した際の満足度 (SA)



*14. マタニティマークの普及啓発については、利用したことがある方の満足度については対象外

「かわさき子育てガイドブック」40.3%、「妊婦健診費用助成」38.5%、「かわさき子育て応援ナビ」34.8%の順に多い。

■今後利用したい事業 (SA)



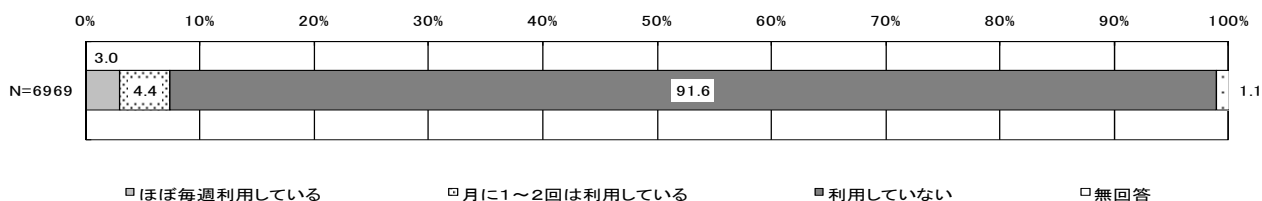
*14. マタニティマークの普及啓発については、今後利用したいものについては対象外

6 土・日曜日や長期休暇中の定期的な教育・保育の事業等の利用（就学前子ども）

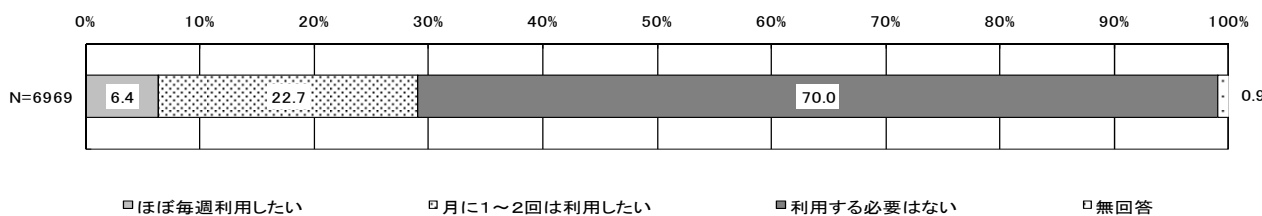
（1）土曜日の教育・保育の事業等の利用状況と今後の利用希望

「ほぼ毎週利用している」と「月に1～2回は利用している」を合わせると約7%であり、時間は開始が7時～9時、終了は17時30分～18時に集中している。また、今後の利用希望は約29%である。

■現在の利用状況 (SA)



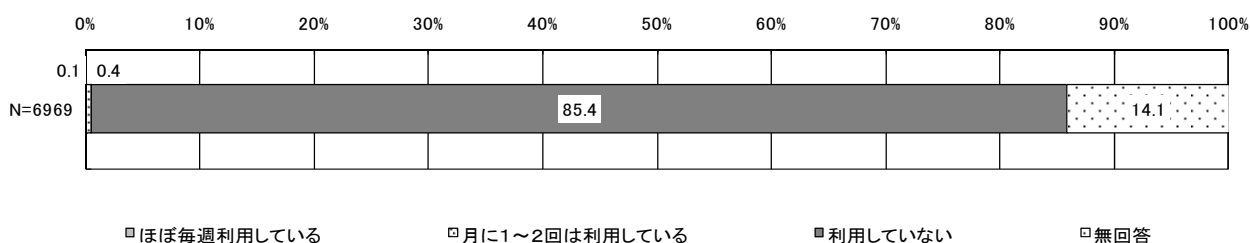
■今後の利用希望 (SA)



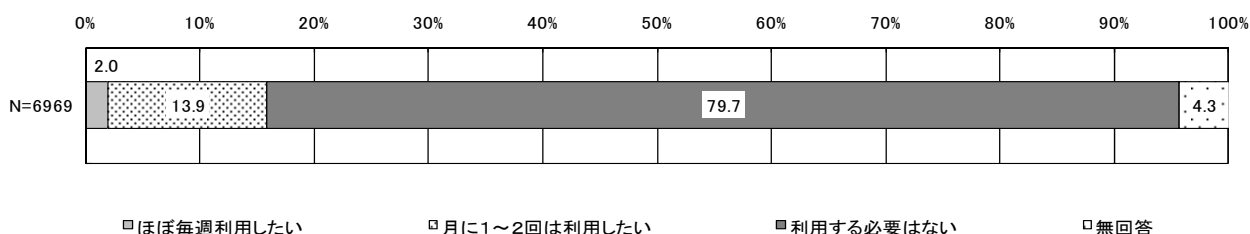
（2）日曜日・祝日の教育・保育の事業等の利用状況と今後の利用希望

「ほぼ毎週利用している」と「月に1～2回は利用している」を合わせても0.5%であり、「利用していない」は85.4%である。また、今後の利用希望は約16%である。

■現在の利用状況 (SA)



■今後の利用希望 (SA)

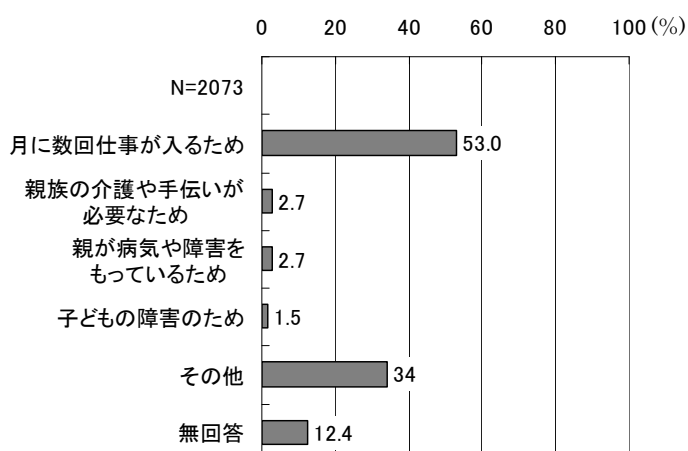
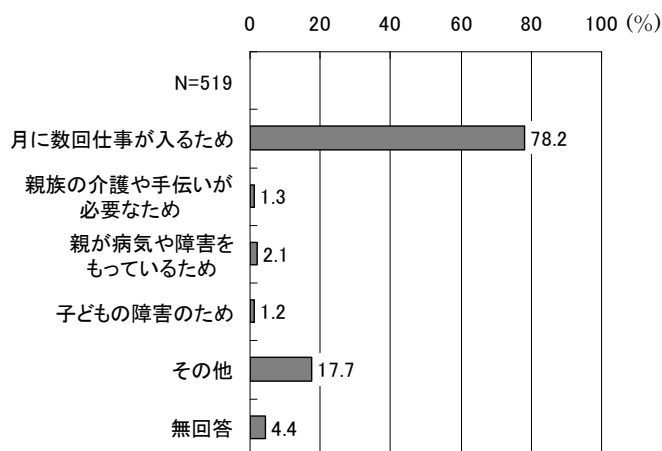


(3) 休日の教育・保育の事業等を利用している理由

「月に数回仕事が入るため」78.2%が最も多い。また、利用したい理由は「月に数回仕事が入るため」53.0%が最も多い。

■現在利用している理由 (MA)

■利用したい理由 (MA)



(4) 幼稚園利用者の夏休みなど長期休暇中の事業の利用状況

幼稚園利用者のうち、長期休暇中の事業を利用している方は約18%である。そのうち、「月～金曜日の3日以内の利用」では、「4時間以上8時間未満」55.7%、「月～金曜日の4日以上の利用」では、「8時間以上11時間未満」53.5%、「土曜日の利用あり」では「8時間以上11時間未満」80.0%が最も多い。

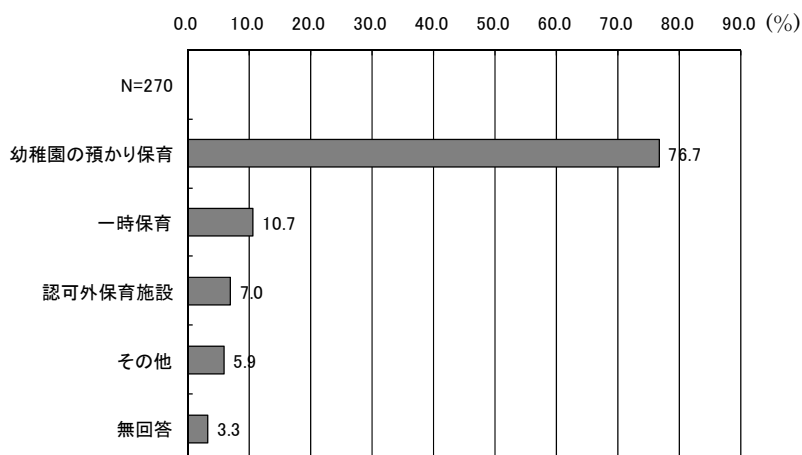
■利用日数別の利用時間 (MA：幼稚園を利用している方)

	合計(N)	4時間未満(%)	4時間以上8時間未満(%)	8時間以上11時間未満(%)	11時間以上(%)
合計	176	5.1	45.5	46.6	2.8
月～金曜日の3日以内の利用	70	10.0	55.7	34.3	0.0
月～金曜日の4日以上の利用	101	2.0	40.6	53.5	4.0
土曜日の利用あり	5	0.0	0.0	80.0	20.0

* 上位2位を網掛け

利用している事業は、「幼稚園の預かり保育」76.7%、「一時保育」10.7%、「認可外保育施設」7.0%の順に多い。

■利用している事業 (MA：幼稚園を利用している方)



(5) 夏休みなど長期休暇中の事業の利用希望

全員に、長期休暇中の事業の利用希望を聞いたところ、「利用したい」が約33%である。そのうち、「月～金曜日の3日以内の利用」では「4時間未満」57.6%、「月～金曜日の4日以上の利用」では「4時間以上8時間未満」48.9%、「土曜日の利用あり」では「4時間以上8時間未満」66.6%が最も多い。

■利用日数別の希望時間

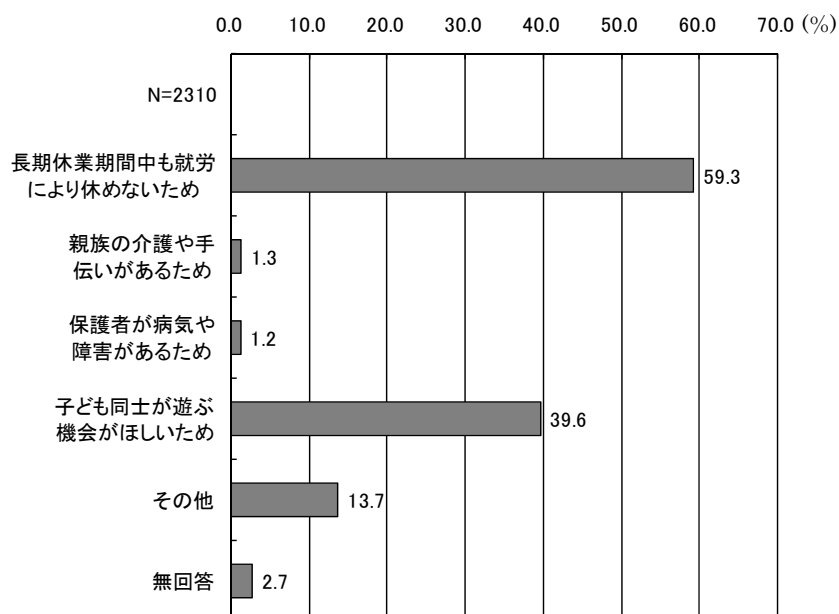
	合計(N)	4時間未満(%)	4時間以上8時間未満(%)	8時間以上11時間未満(%)	11時間以上(%)
合計	1564	22.4	59.0	18.6	0.0
月～金曜日の3日以内の利用	66	57.6	37.9	4.5	0.0
月～金曜日の4日以上の利用	562	39.7	48.9	11.4	0.0
土曜日の利用あり	936	9.5	66.6	23.9	0.0

* 上位2位を網掛け

(6) 夏休みなど長期休暇中の事業を利用したい理由

「長期休業期間中も就労により休めないため」59.3%、「子ども同士が遊ぶ機会がほしいため」39.6%の順に多い。

■利用したい理由 (MA)



7 子どもが病気の際の対応

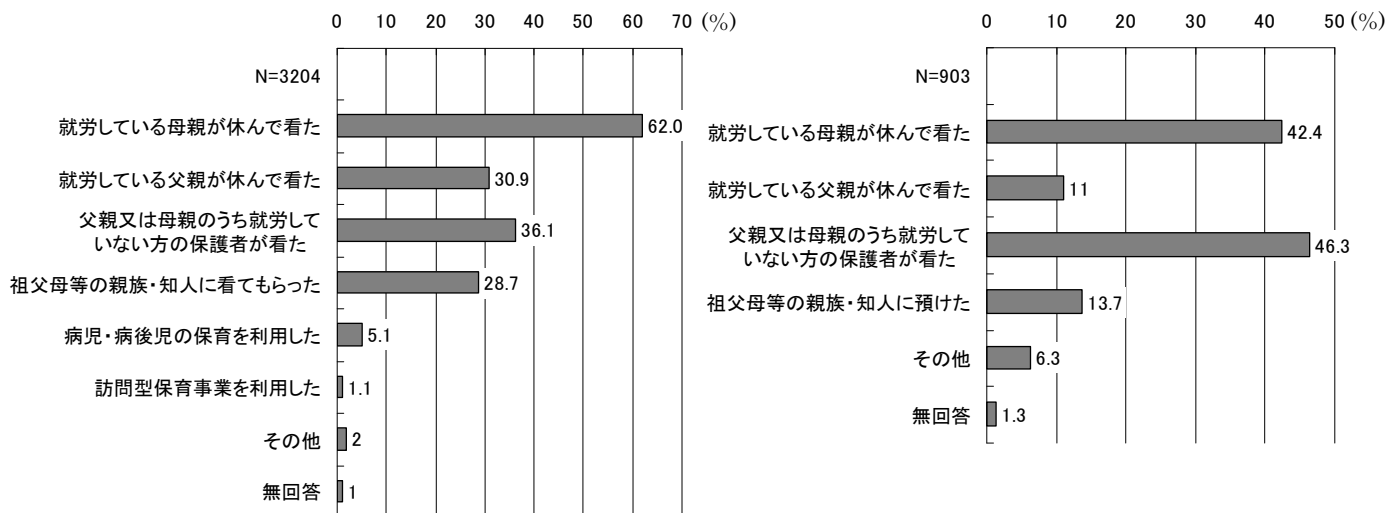
(1) 子どもが病気等で休んだ場合の対応

就学前子どもについて、調査時点から1年内で子どもが病気やケガで保育所や幼稚園を休んだことがあるのは約87%、就学子どもについて、学校を休んだことがあるのは約68%である。その際の対処方法について、就学前子どもでは、「就労している母親が休んで見た」62.0%、就学子どもでは、「就労している母親が見た」42.4%である。

就学前子どもで「病児・病後児の保育を利用した」は5.1%、「訪問型保育事業を利用した」は1.1%である。

■就学前子ども (MA)

■就学子ども (MA)



(2) 就労している父親・母親が見た際の病児・病後児保育の利用意向

就学前子どもでは、病児・病後児保育を「利用したいと思った」が約46%であり、就学子どもでは、病児・病後児のための施設等があれば「利用したいと思う」が約29%である。

ア 病児・病後児保育を利用したい年間日数

利用したい年間日数については、就学前子ども・就学子ども共に1～10日に集中している。

■就学前子ども (SA: 利用したい方)

利用したかった日数	合計(N)	全体(%)
1～5日	453	48.7
6～10日	310	33.3
11～15日	35	3.8
16～20日	56	6.0
21～25日	2	0.2
26～30日	26	2.8
31～35日	3	0.3
36～40日	5	0.5
41～45日	0	0.0
46～50日	2	0.2
51～55日	0	0.0
56～60日	2	0.2
61日以上	0	0.0
無回答	36	3.9
合計	930	100.0

*上位3位を網掛け

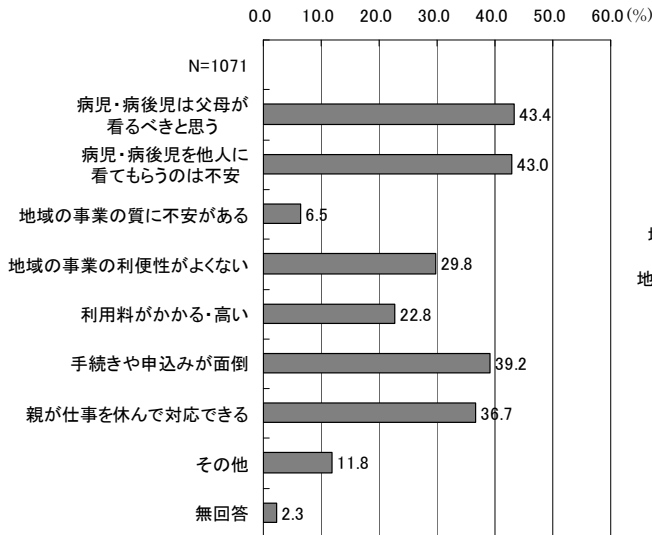
■就学子ども (SA: 利用したい方)

利用したかった日数	合計(N)	全体(%)
1～5日	71	60.2
6～10日	32	27.1
16～20日	2	1.7
21～25日	0	0.0
26～30日	0	0.0
31～35日	0	0.0
36～40日	0	0.0
41～45日	0	0.0
46～50日	0	0.0
51～55日	0	0.0
56～60日	0	0.0
61日以上	0	0.0
無回答	12	10.2
合計	118	100.0

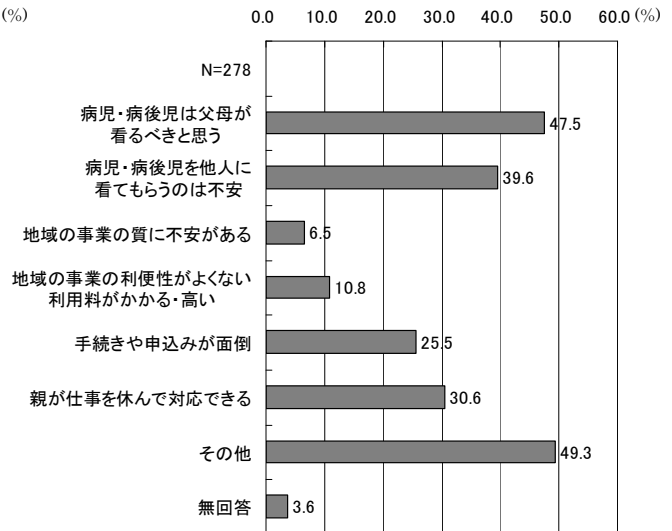
イ 病児・病後児保育の利用を希望しない理由

病児・病後児保育施設等を利用したいとは思わなかった方の理由については、就学前子ども・就学子ども共に「病児・病後児は父母が看るべきと思う」、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が約 40%台と多く、「手続きや申込みが面倒」が就学前子どもで 39.2%、就学子どもで 25.5%である。

■就学前子ども (MA)



■就学子ども (MA)

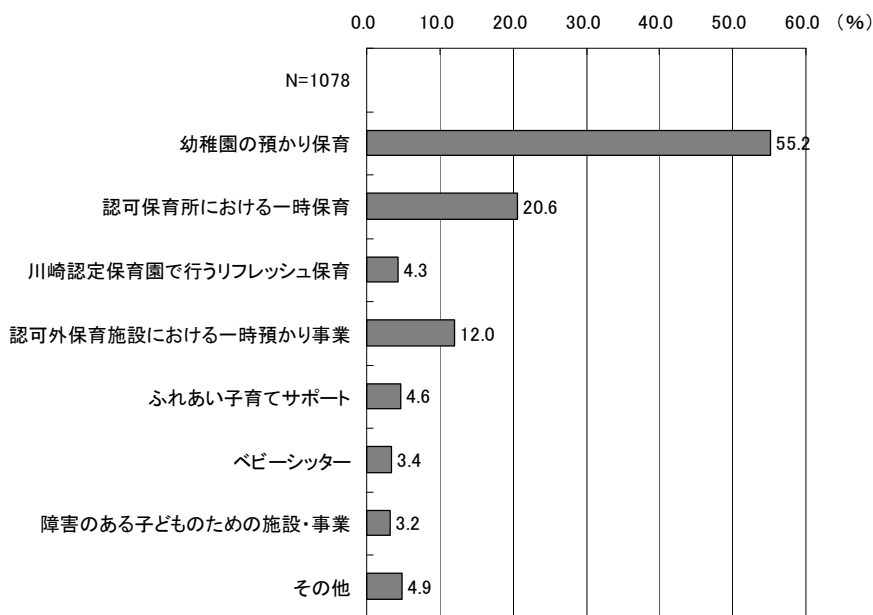


8 不定期の教育・保育の事業の利用状況

(1) 不定期の事業の利用状況

就学前子どもで不定期の事業を利用している方は全体の約 16%であり、そのうち、利用している事業は「幼稚園の預かり保育」55.2%、「認可保育所における一時保育」20.6%の順に多い。

■就学前子ども (MA : 利用している方)



不定期の事業の利用日数は、年間に1～5日、「10日」に集中している。

■利用事業別の利用状況(MA：利用している方)

(1年間の利用日数)

	合計(N)	1日(%)	2日(%)	3日(%)	4日(%)	5日(%)	6日(%)	7日(%)	8日(%)	9日(%)	10日(%)
幼稚園の預かり保育	500	9.0	9.2	14.8	3.4	17.0	2.2	4.2	1.4	0.2	16.0
認可保育園における一時保育	124	12.9	7.3	6.5	3.2	11.3	1.6	0.0	0.8	0.0	12.1
川崎認定保育園で行うリフレッシュ保育	33	12.1	6.1	9.1	3.0	6.1	3.0	0.0	3.0	0.0	24.2
認可外保育施設における一時預かり事業	92	12.0	9.8	16.3	3.3	15.2	1.1	1.1	1.1	0.0	13.0
ふれあい子育てサポート	34	14.7	2.9	5.9	8.8	11.8	2.9	0.0	0.0	0.0	17.6
ベビーシッター	31	19.4	12.9	6.5	0.0	3.2	0.0	0.0	3.2	0.0	12.9
障害のある子どものための施設・事業	21	9.5	9.5	4.8	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
その他	28	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3

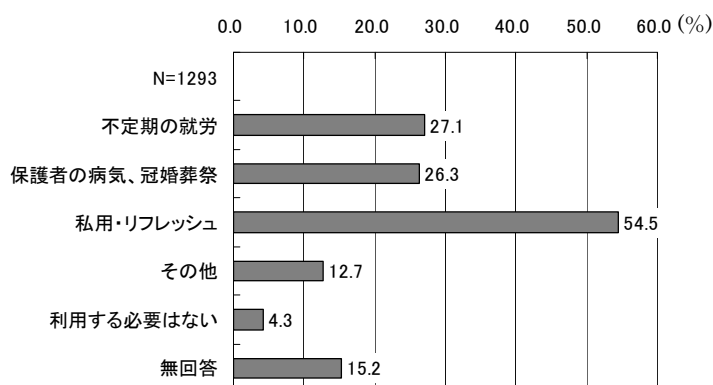
	合計(N)	11～15日(%)	16～20日(%)	21～25日(%)	26～30日(%)	31～35日(%)	36～40日(%)	41～45日(%)	46～50日(%)	51～55日(%)	56～60日(%)	61日以上(%)
幼稚園の預かり保育	500	6.2	6.2	1.2	2.6	0.0	1.8	0.2	1.4	0.0	0.8	2.2
認可保育園における一時保育	124	8.1	12.9	4.8	2.4	0.0	4.8	0.0	3.2	0.0	1.6	6.5
川崎認定保育園で行うリフレッシュ保育	33	15.2	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0
認可外保育施設における一時預かり事業	92	10.9	7.6	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	1.1	1.1
ふれあい子育てサポート	34	2.9	11.8	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	0.0	2.9	2.9
ベビーシッター	31	3.2	9.7	12.9	3.2	0.0	0.0	0.0	12.9	0.0	0.0	0.0
障害のある子どものための施設・事業	21	9.5	14.3	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	4.8	0.0	9.5	0.0
その他	28	7.1	7.1	10.7	0.0	7.1	14.3	7.1	0.0	0.0	0.0	10.7

*上位5位を網掛け

(2) 利用の目的

利用の目的は、「私用・リフレッシュ」54.5%、「不定期の就労」27.1%、「保護者の病気、冠婚葬祭」26.3%の順に多い。

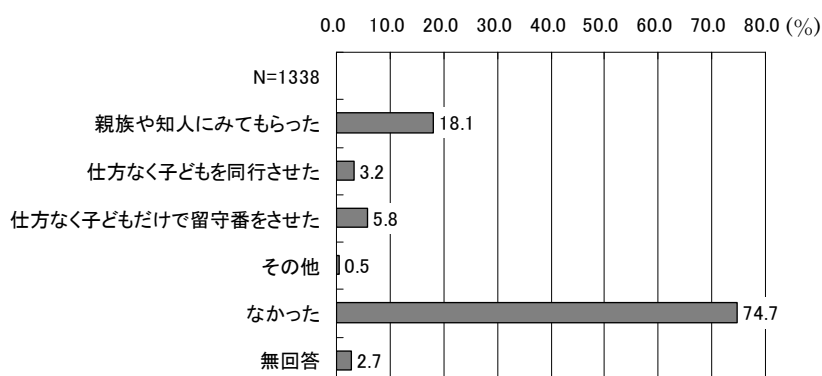
■就学前子ども(MA：利用している方)



(3) 平日の夜間や休日の一時預かりの状況

就学子どもについて、平日の夜間や休日の一時預かりの状況は、「なかった」74.7%、「親族や知人にみてもらった」18.1%の順に多い。

■就学子ども(MA)

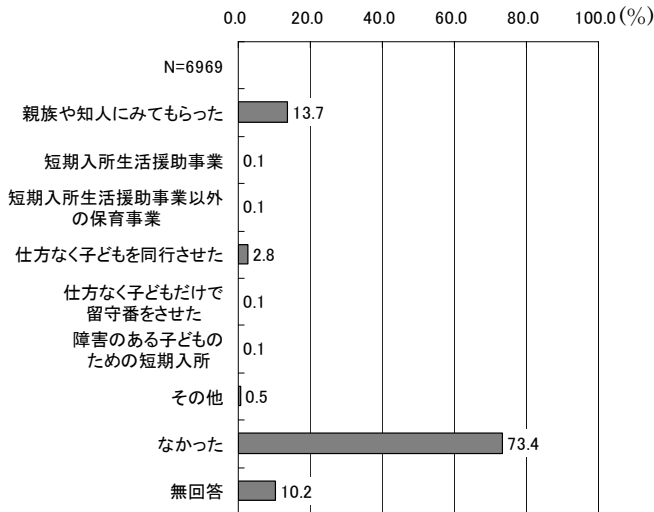


9 宿泊を伴う一時預かり事業

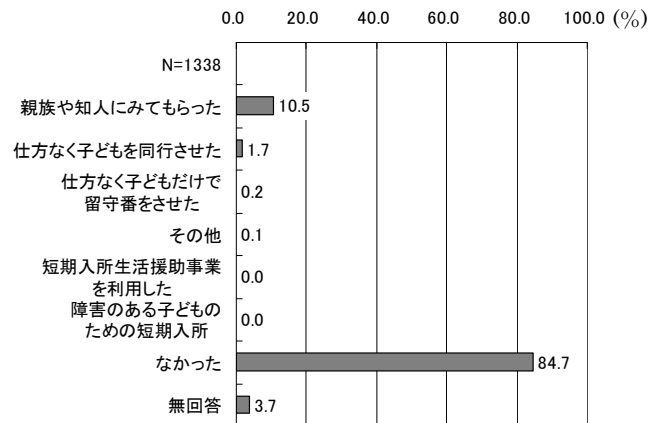
(1) 泊まりがけで預けなければならなかった場合の対処方法

宿泊を伴う預かりについて、「なかった」が就学前子ども 73.4%、就学子ども 84.7%であり、「親族や知人にみてもらった」が就学前子ども 13.7%、就学子ども 10.5%である。なお、就学前子どもの「短期入所生活援助事業」の利用は5件である。

■就学前子ども (MA)



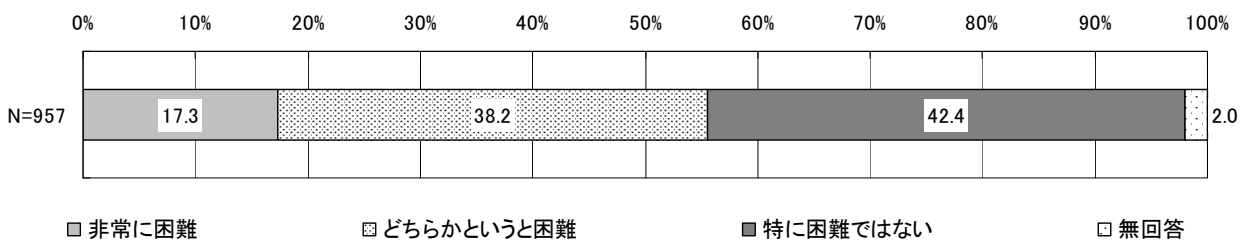
■就学子ども (MA)



(2) 親族や知人に預けた場合の困難度

親族や知人にみてもらった場合の困難度については、「非常に困難」と「どちらかという困難」を合わせると約 56%である。

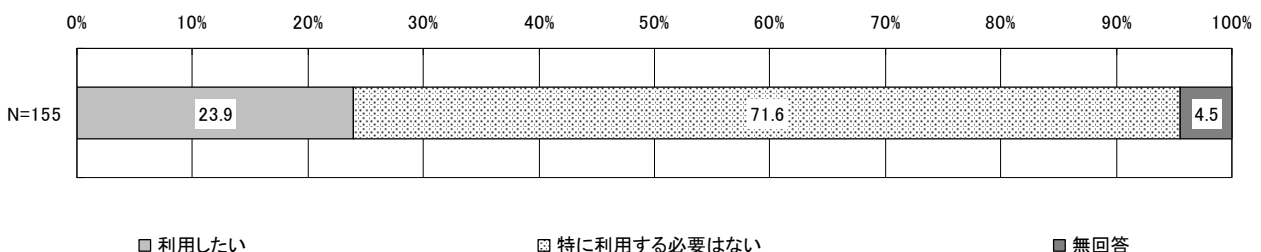
■就学前子ども (SA : 親族・知人にみてもらった)



(3) 短期入所生活援助（ショートステイ）事業の利用希望

就学子どもで、短期入所生活援助（ショートステイ）事業を「利用したい」が 23.9%である。

■就学子ども (SA : 親族・知人にみてもらった及び同行・留守番をさせた方)

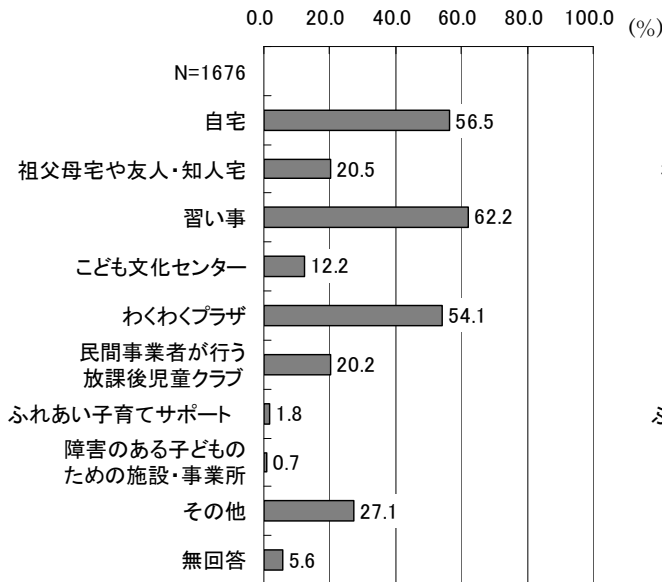


10 小学校就学後の放課後事業の利用希望（4歳以上の就学前子ども）

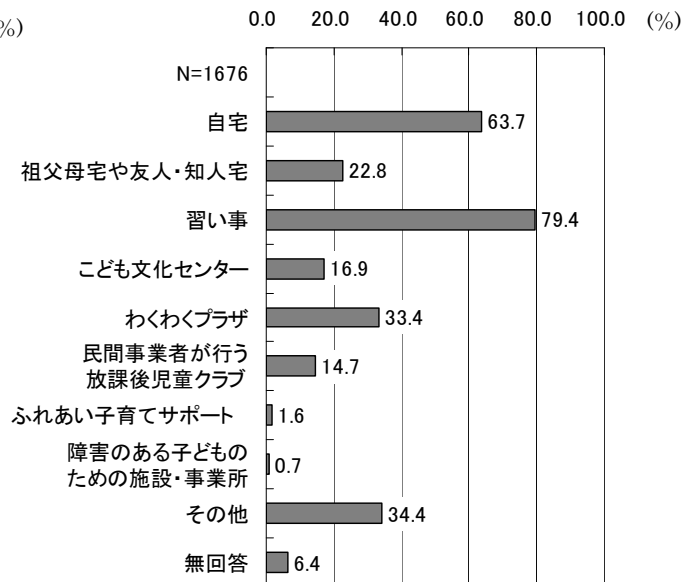
(1) 保護者が希望する子どもの放課後の過ごし方

低学年のうちには、「習い事」（週2日最多）、「自宅」（週2日最多）、「わくわくプラザ」（週5日最多）の順に多く、高学年では「習い事」（週2日最多）、「自宅」（週2日最多）、「わくわくプラザ」（週1日最多）」の順に多い。

■低学年のときの希望(MA)



■高学年のときの希望(MA)



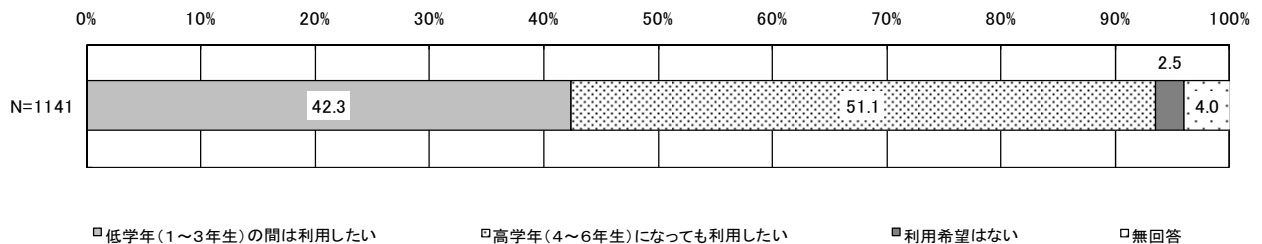
*その他：図書館、市民館、公園など

(2) わくわくプラザや民間学童保育の利用希望

ア 月～金曜日の利用希望

「低学年の間は利用したい」が42.3%、「高学年になっても利用したい」が51.1%である。

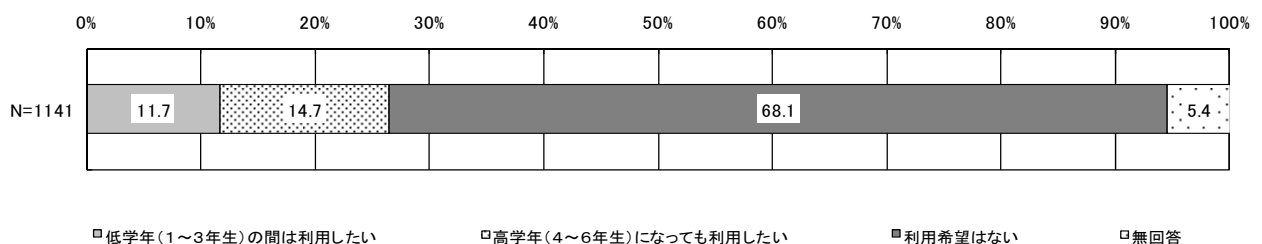
■月～金曜日の利用希望(SA：わくわくプラザや民間学童保育の利用希望者)



イ 土曜日の利用希望

「低学年の間は利用したい」が11.7%、「高学年になっても利用したい」が14.7%である。

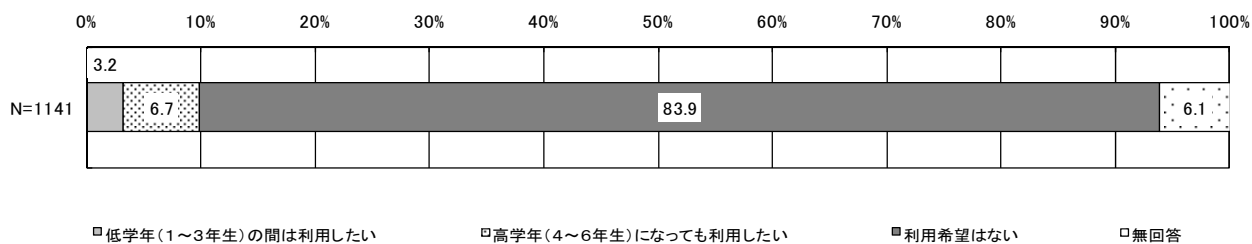
■土曜日の利用希望(SA：わくわくプラザや民間学童保育の利用希望者)



ウ 日曜日・祝日の利用希望

「低学年の間は利用したい」が3.2%、「高学年になっても利用したい」が6.7%である。

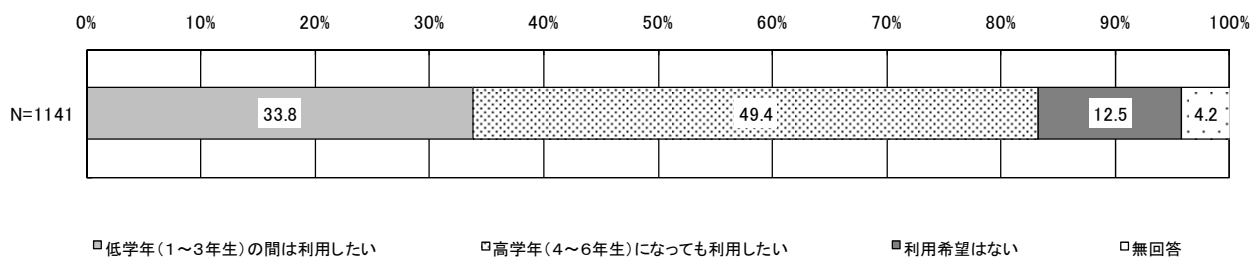
■日曜日・祝日の利用希望 (SA：わくわくプラザや民間学童保育の利用希望者)



エ 夏休みなどの長期休暇中の利用希望

「低学年の間は利用したい」が33.8%、「高学年になっても利用したい」が49.4%である。

■夏休みなどの長期休暇中の利用希望 (SA：わくわくプラザや民間学童保育の利用希望者)

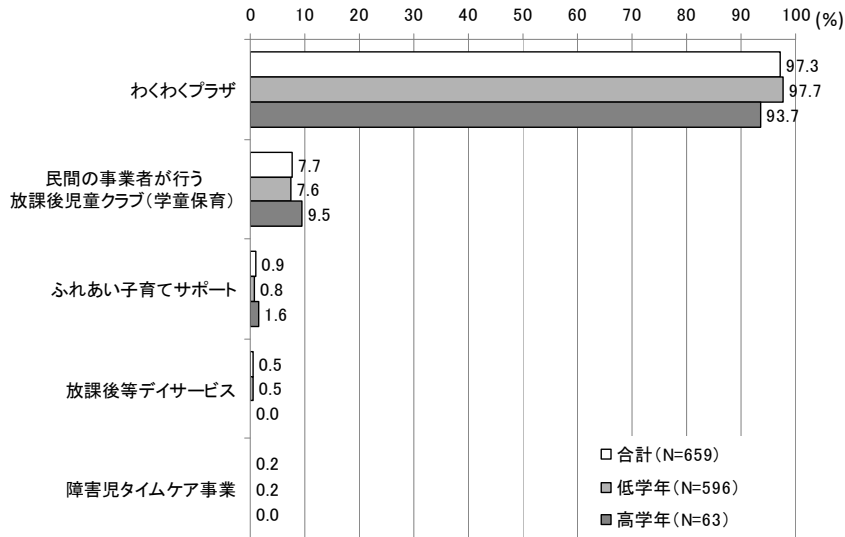


1.1 小学校就学後の放課後事業の利用状況（就学子ども）

(1) 放課後事業の利用について

放課後事業を利用している方は全体の約 50%であり、そのうち、わくわくプラザを利用しているのは低学年で 97.7%、高学年で 93.7%である。

■ 利用している放課後事業 (MA：利用している方)

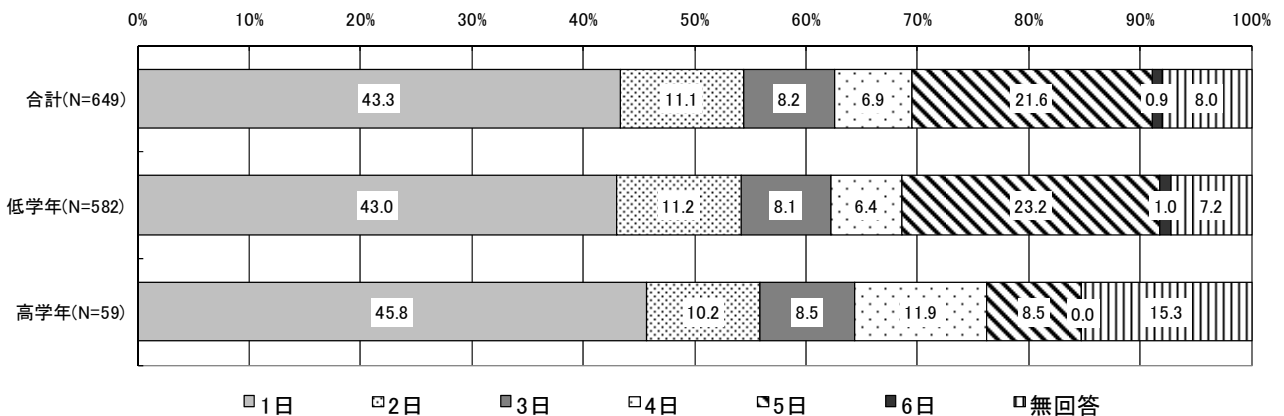


(2) わくわくプラザの利用について

ア 1週間の利用日数

低学年では「1日」43.0%、「5日」23.2%の順に多く、高学年では「1日」45.8%、「4日」11.9%の順に多い。

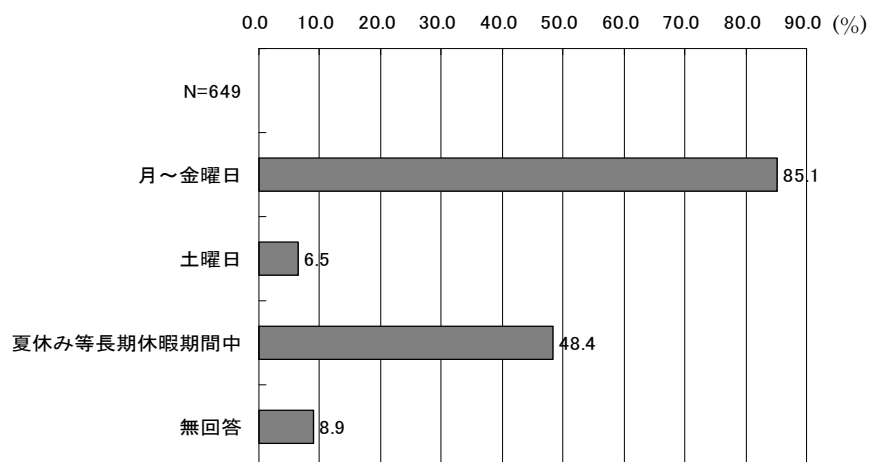
■ 1週間の利用日数 (SA: わくわくプラザを利用している方)



イ 現在の利用状況

「月～金曜日」85.1%、「夏休み等長期休暇期間中」48.4%、「土曜日」6.5%の順に多く、利用希望についても同じ順である。

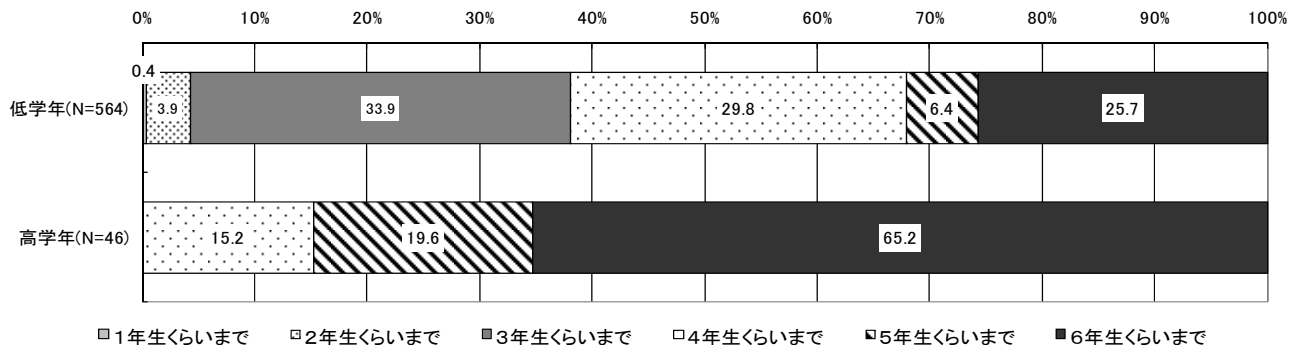
■現在の利用状況 (MA: わくわくプラザを利用している方)



ウ わくわくプラザを利用したい学年

低学年では、「3年生くらいまで」33.9%、「4年生くらいまで」29.8%、「6年生くらいまで」25.7%の順に多く、高学年では、「6年生くらいまで」が65.2%となっている。

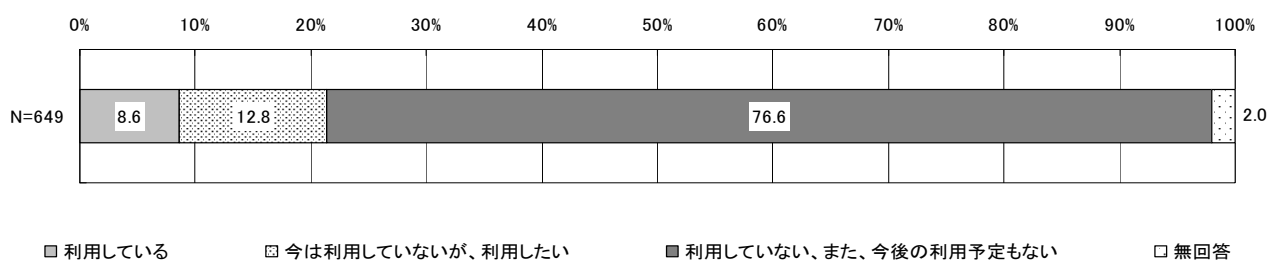
■わくわくプラザを利用したい学年 (SA: わくわくプラザを利用している方)



エ 19時までの時間延長の利用状況と意向

わくわくプラザの時間延長を「利用している」が8.6%、「今は利用していないが、利用したい」が12.8%である。

■19時までの時間延長の利用状況と意向 (SA: わくわくプラザを利用している方)



12 特別な支援が必要な家庭の状況

(1) ひとり親家庭の状況

ア ひとり親家庭について (参照2頁(1) 家族構成の状況)

ひとり親家庭は、就学前子どもの世帯の2.5%、就学子どもの世帯の5.7%である。

就学前子どものひとり親家庭では、「親族同居の母子家庭」1.4%、「母子家庭」0.9%、「父子家庭」及び「親族同居の父子家庭」0.1%の順に多い。

就学子どものひとり親家庭では、「母子家庭」2.5%、「親族同居の母子家庭」2.1%、「父子家庭」0.7%、「親族同居の父子家庭」0.4%の順に多い。

イ ひとり親家庭の子育てに対する支えの有無

就学前子どもの子育てに対する支えの有無については、「いずれもない」が「母子家庭」で16.4%、「父子家庭」では50.0%と、親族と同居している家庭よりも高い。

就学子どもの子育てに対する支えの有無については、「いずれもない」が「母子家庭」では24.2%、「父子家庭」では33.3%と、親族と同居している家庭よりも高い。

■ 家族構成別の子育てに対する支えの有無 (就学前子ども)

	合計(N)	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる(%)	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる(%)	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる(%)	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる(%)	いずれもない(%)
合計	6831	17.2	59.6	2.7	17.0	20.3
核家族(父母とも)	4765	8.2	58.2	2.4	17.9	27.0
ひとり親(父子家庭)	10	10.0	40.0	0.0	0.0	50.0
ひとり親(父子家庭)親族同居あり	6	100.0	16.7	16.7	16.7	0.0
ひとり親(母子家庭)	61	16.4	62.3	4.9	29.5	16.4
ひとり親(母子家庭)親族同居あり	101	40.6	56.4	3.0	15.8	9.9
単身赴任	92	34.8	48.9	4.4	15.2	17.4
親族同居家族	571	53.1	50.1	5.1	14.0	4.6
祖父母近居	1225	31.8	71.1	2.5	14.6	2.9

*最大値を網掛け

■ 家族構成別の子育てに対する支えの有無 (就学子ども)

	合計(N)	日常的に祖父母等の親族にみてもらえる(%)	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる(%)	日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる(%)	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる(%)	いずれもない(%)
合計	1319	18.9	52.9	8.3	39.9	14.2
核家族(父母とも)	810	4.8	51.1	7.5	46.1	19.8
ひとり親(父子家庭)	9	11.1	33.3	0.0	33.3	33.3
ひとり親(父子家庭)親族同居あり	5	60.0	40.0	20.0	0.0	20.0
ひとり親(母子家庭)	33	15.2	39.4	6.1	42.4	24.2
ひとり親(母子家庭)親族同居あり	28	57.1	46.4	0.0	14.3	0.0
単身赴任	37	27.0	46.0	2.7	35.1	16.2
親族同居家族	148	63.5	40.5	15.5	25.7	2.7
祖父母近居	249	32.5	70.7	8.8	32.5	2.0

*最大値を網掛け

ウ ひとり親家庭の就労状況 (参照5頁(1) 世帯(母親と父親)の就労状況)

就労状況について、就学前子どもの「父子家庭」は親族同居のある・なし共に全て「フルタイム」であり、「母子家庭」は親族同居のある・なし共に「フルタイム」「パート」「無業」と多様であり、特に「無業」に占める母子家庭全般の割合が高い。

就労状況について、就学子どものひとり親全般で、「パート」よりも「フルタイム」の割合が高い。

(2) 障害のある子どものいる家庭の状況

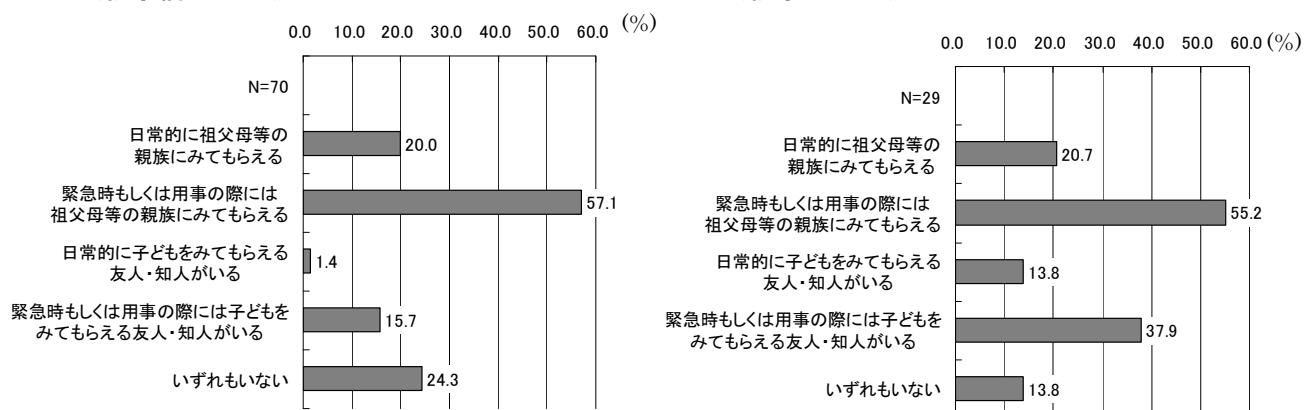
「障害のある子どものための施設・事業所」を子育てに関する相談先として選んだ方は、就学前子どもの1.5%、就学子どもの2.4%である。

子育てに対する支えの有無については、調査全体の状況にほぼ近い。就学前子どもでは、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」57.1%に次いで、「いずれもない」が24.3%である。就学子どもでは、「いずれもない」が13.8%である。

■子育てに対する支えの有無(MA：障害のある子どものための施設・事業所の相談者)

(就学前子ども)

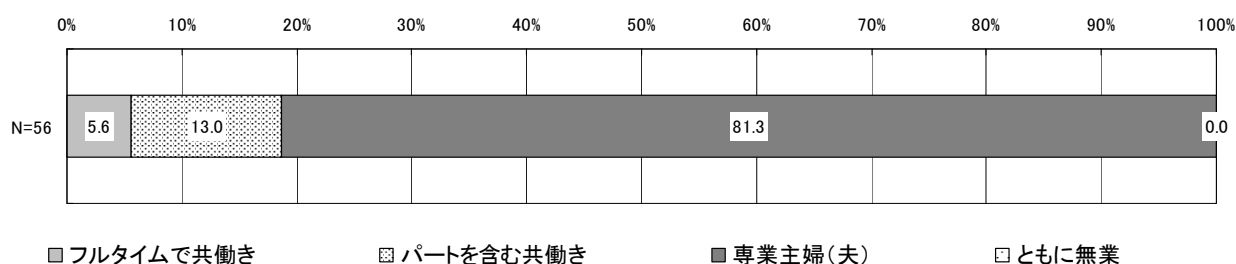
(就学子ども)



就学前子どもにおいて、「定期的な障害のある子どものための施設・事業所」を利用していると選んだ方の世帯就労状況については、「専業主婦(夫)」81.3%、「パートを含む共働き」13.0%、「フルタイムで共働き」5.6%の順に多く、就学前子ども全体の世帯就労状況における「専業主婦(夫)」49.3%の割合に比べて高い。

■世帯の就労状況 (SA:定期的な障害のある子どものための施設・事業所の利用者)

(就学前子ども)



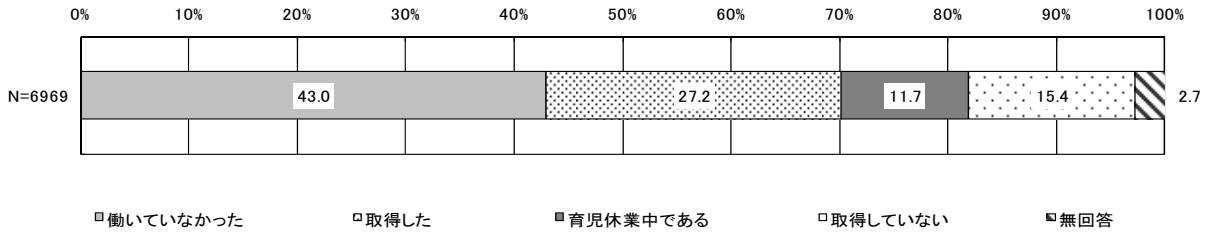
1 3 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度（就学前子ども）

（1）育児休業制度の取得状況

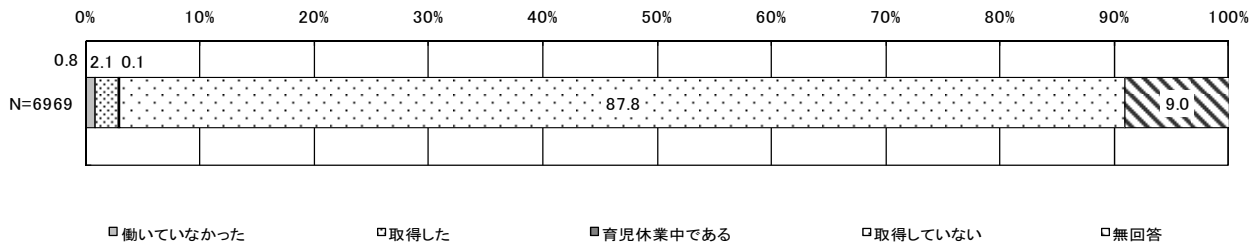
育児休業を「取得した」と「育児休業中である」を合わせて、母親では約 39%、父親では約 2% である。

育児休業を取得していない理由については、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」約 50%、「職場に育児休業の制度がなかった」約 20%の順に多く、父親では「仕事が忙しかった」約 40%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」約 32%の順に多い。

■母親 (SA)



■父親 (SA)

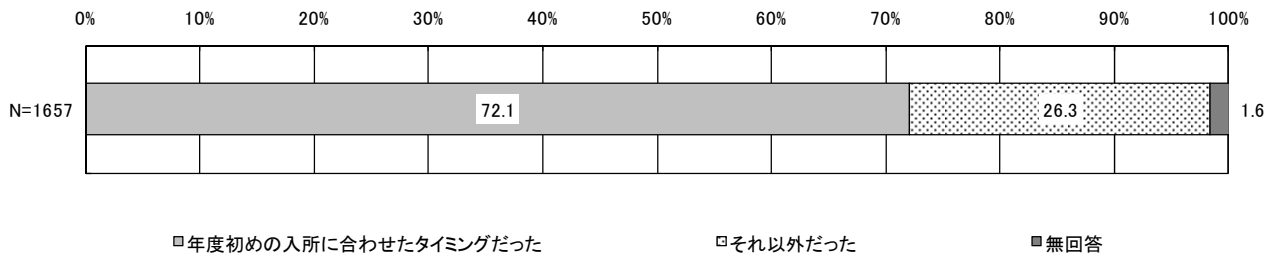


（2）育児休業制度の取得状況と希望

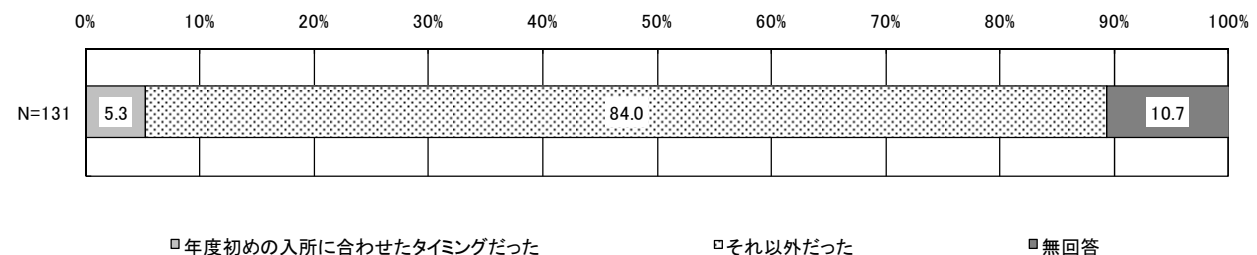
ア 職場復帰のタイミング

育児休業取得後、職場に復帰した方は、母親、父親共に約 90%であり、年度初めの入所に合わせて復帰した方は、母親では 72.1%、父親では 5.3%である。

■母親 (SA : 育児休業を取得した方)



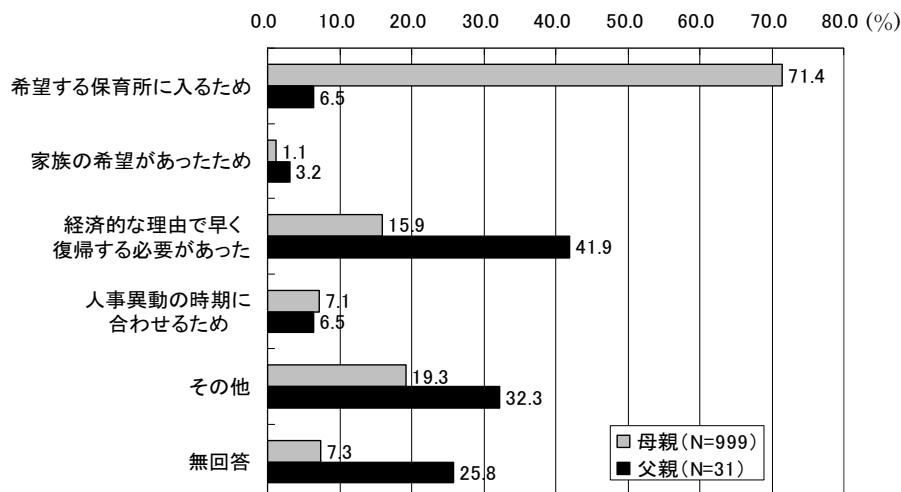
■父親 (SA : 育児休業を取得した方)



イ 希望の時期に職場復帰しなかった理由

希望より早く復帰した理由は、母親では「希望する保育所に入るため」71.4%、父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があるがあった」41.9%が最も多い。また、希望より遅く復帰した理由は、母親では「希望する保育所に入れなかったため」76.7%が最も多い。

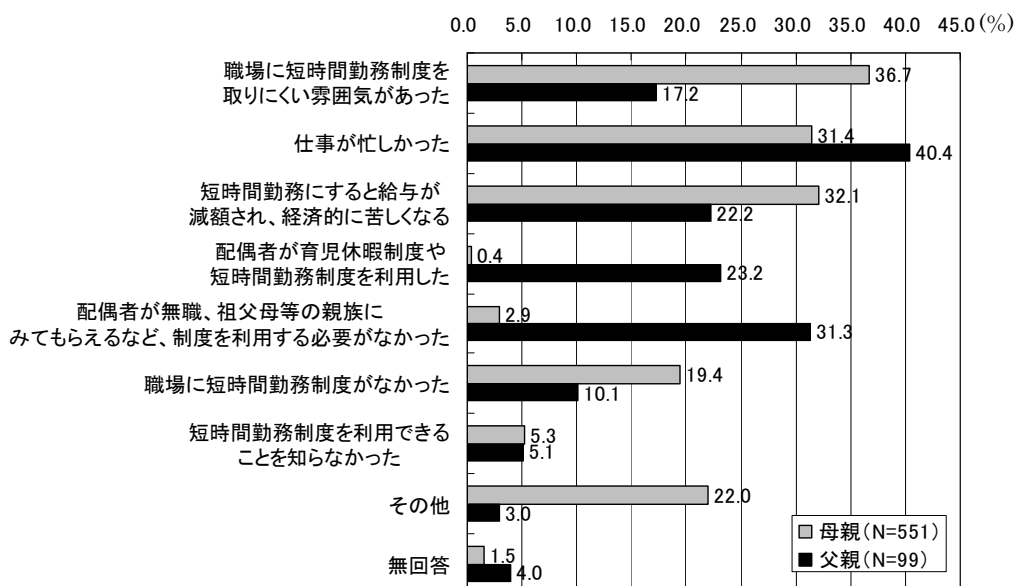
■希望より早く復帰した方(MA)



(3) 短時間勤務制度の利用状況

育児休業取得後に職場復帰した方のうち、短時間勤務制度を利用したのは、母親では約64%、父親では約8%である。また、利用しなかった理由は、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」36.7%、父親では「仕事が忙しかった」40.4%が最も多い。

■短時間勤務制度を利用しなかった理由(MA)

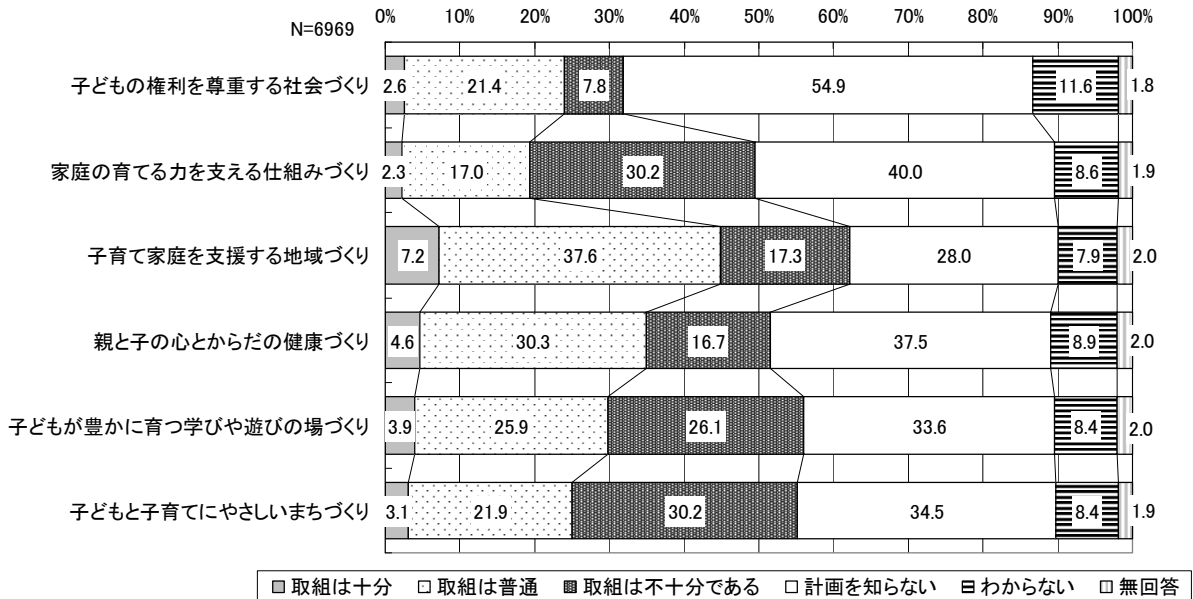


1.4 これまでの川崎市の子育てに関する事業への取組

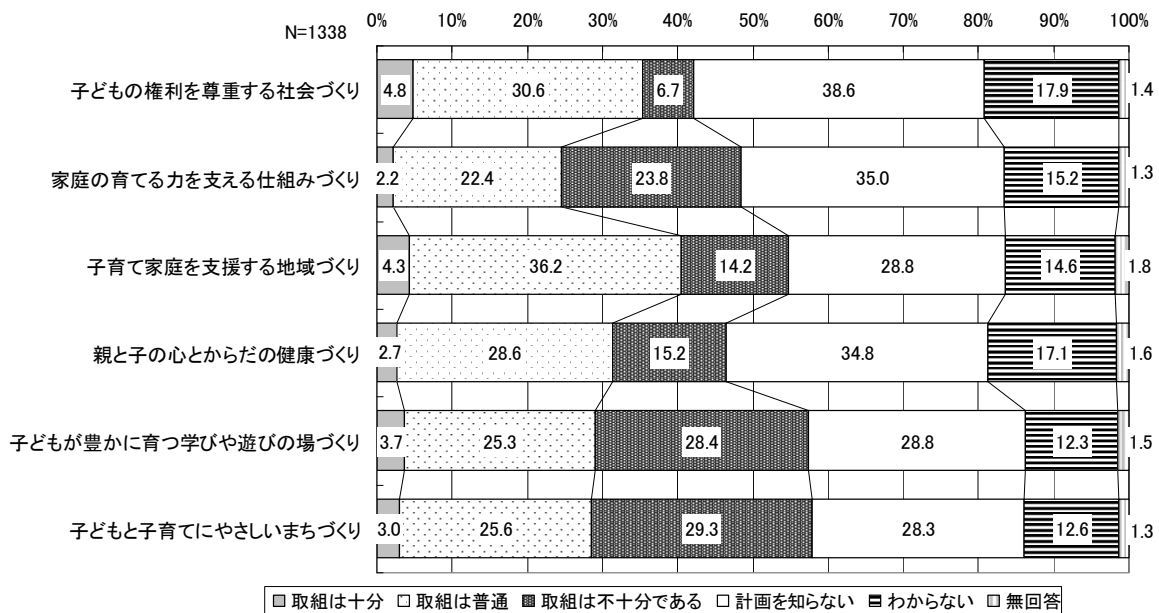
(1) 「次世代育成支援対策行動計画 かわさき子ども「夢と未来」プラン（後期計画）」に基づく取組への感想

就学前子ども・就学子ども共に、「取組みは十分」と「取組みは普通」を合わせて「子育て家庭を支援する地域づくり」が40%台と最も多く、次いで就学前子どもでは「親と子の心とからだの健康づくり」約35%、就学子どもでは「子どもの権利を尊重する社会づくり」約35%が多い。

■就学前子ども (SA)



■就学子ども (SA)



川崎市 子ども・子育て支援に関する調査 報告書（概要版）

発行日 平成 26 年 2 月

発行者 川崎市

市民・こども局こども本部子育て施策部子ども・子育て支援新制度準備担当
川崎市川崎区宮本町 1 番地

電話 044-200-3534
